

幼兒性情の涵養

—— 講習筆記 ——

倉 橋 惣 三

一、幼稚園の目的について

本年の私の題目は「幼兒性情の涵養について」云ふ事になつて居りますが、このお話の導き出しをしまして幼稚園の目的の事に就て一寸考へて置き度いと思ふのであります。幼兒性情の涵養云ふ言葉は改めて申上げる迄もなく幼稚園第一條にあります所の、幼稚園の目的の中の言葉で、即ち私の作りました言葉ではなくして幼稚園令第一條に使つて居る言葉であります。其所でその順序に基いて考へて置くことが先づ必要だと思ふのであります。昨日も幼稚園令の事に就て色々お話がありました、これも改めて申上げる迄もなく幼稚園令が改正せられました。：：改正ではありませぬ。制定せられて公布せられましたのは、昨日その十年を記念しました大正十五年であります、その前から幼稚園に關する規則云ふものはもこよりあつたのであります。其所で新しき幼稚園令が、前の幼稚園規則と何處が變つて居るか云ふ事は、幼稚園の本質を研究して行く上に於て少くも或參考になります事かと思ふ。色々法規的な問題で變つて居る處は多いのであります、幼稚園の目的云ふ事に關する限りに於きましては、今回私が問題に致します性情の涵養云ふ言葉が幼稚園規則と幼稚園令と違つて居る點であり唯一の點であります。幼稚園令第一條の言葉を此處に繰返す必要もありませ

ぬが、「幼稚園は幼児を保育して心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養し家庭教育を補ふを以て目的とす」、
「幼稚園は幼児を保育して心身を健全に發達せしめ」云ふ事も同じであります。「家庭教育を補ふを以て目的とす」云ふ事も同じであります。規則には、「善良なる習慣を養成し」、
「書いてありましたのを改めて、善良なる性情を涵養し」云ふ言葉に直つて居ります。即ちこの言葉だけが
大正十五年の幼稚園令發布に當りまして、内容的に一番大事な目的の所に於きまして特に改められた點であります。法令に基いて物を考へて行きます以上は、特に改められた云ふ所に先づ重點を拂つて考へて見なければならぬ事は申す迄もないのであります。

さて、その幼稚園令の今の言葉をもう一度眺めて見ますと、幼児を保育して、
「云ふ所はこれはまあ大體を示した所であります、家庭教育を補ふを以て目的とす」、
「書いてあります所は幼稚園が子供の教育に與り參與する所の意味を表はした點であります。教育目的の内容方面を規定して居るのは、中の言葉として、心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養し、
「云ふあの言葉であります。其處を問題に致します。これは讀下しましたり或はたゞ簡單に考へる人に於きましては別に問題も起らない様な分り切つた言葉に過ぎませぬが、假に……研究でありますから色々ひねくつて見ます。お暑さの砌ひねくりまして誠に相濟みませぬが研究でありますからうさくひねつて見ます。心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養し、
「云ふ言葉は、心身を健全に發達せしめ、
「云ふ一つの句と、善良なる性情を涵養し、
「云ふ一つの句と、それが何う云ふ關係になつて来るだらうか、その問題が先づ第一の研究點であります。文法の講釋をする譯ではありませぬが、終ひの一つの句に上の句がかゝつて來ます時に、その終ひの一つを規定する言葉として上の言葉が働いて來る事もあります。或は全く無關係なる二つの句の聯立になつて居る事もあります。其所で先づ考へます事は、あの、心身

を健全に發達せしめ、ミ云ふ事ミ、善良なる性情を涵養し、ミ云ふ事があの二つの句の間に……法令は凡て點等を打ちませぬものですから、コンマがあるか何うか其所が問題なのでありますが、若し切離したものとすれば二つの事でありますし、續いて居るものとしますならば、心身を健全に發達せしめる事に依て善良なる性情を涵養し、ミ云ふ意味になつて参ります。心身を健全に發達せしめるミ云ふ事は別であつて、善良なる性情を涵養し、ミ云ふ事は又別である。心身を健全に發達せしめるのはお庭であつて、善良なる性情を涵養するのは佛壇の前であるとするミ、斯う云ふ風に全く別な事なんであらうか。或はあれが斯うする事に依て斯う云ふ風な繋りになつて行く言葉なんだらうか。其所の問題であります。これを、あの文章をたゞ文法的につゞき廻しました所でその解決はつきますまいし、或は其の問題さへも起らずに済まし得るかも知れませぬ。言葉が何うだミ云ふ様な文法上の意味でありましたら其所は何うでもいい様な事でありますが、實際問題ミしまして、性情を涵養するミ云ふ事ミ心身を健全に發達せしめるミ云ふ事はこれは近世の心理學に於て……等ミ申しませぬ迄も、非常な關係のある事は私共が法令以外の處で始終學んで居る事であります。心身を健全に發達せしめる事なくして善良なる性情ミ云ふものがあり得るや。これは今日私共の信じない所であります。そこで法令以外の現代の吾々の知識ミしまして、さう云ふ結び付いて居るものがあるミ云ふ事を基礎にして、あの法文を讀んで見ますミ、法文は、それはさうであるが二つの事を二個の重點に於いて示して居るのである。其所に問題が発生して來る譯であります。

次に當時の歴史的な事になりまするが、幼稚園令が出來ます前後に於きまして、出來る前にも色々な討究があり、出來た後にも色々な討究がありしたが、その色々な意見の中に、これは二つ書かなくても一つでいいじゃないかミ云ふ論もあつたのであります。別に文部省内に於て何うさか云ふのではありませぬが、さう云ふ意見が當時はありまして、教育に關

する會合等の場合に出たのであります。法令では餘計な事を申しませぬので、必要な事だけしか書いてないのでありますから、あの二つの文句は是非必要だと言主張しなければならぬ。これに反しまして、一つでいゝじやないかと言ふ論もあつたのであります。その論を立てます人は、心身を健全に發達せしめる言ふ事だけでいゝじやないか。さうすれば必ず、善良なる性情が涵養されるのであるから、そんな事を新たに附加へなくてもいゝじやないかと言ふ様な論もあつた程であります。而も亦その論者の心持をもう一つ委しく分解致しますと、心身を健全に發達せしめ、言ふ事さへ出來れば後の事は結果に他ならぬから書かなくてもいゝじやないかと言ふ論は、若しも彼處に書いてあります言葉が、書いてあつてもなくても餘り問題も起らぬ様な軽い意味の言葉ならば敢てそんな難しい事は申しませぬ。「本日は暑い」言へばいゝじやないか。「御座ります」なんかは要らぬじやないかと言ふ様な事は、そんなに御座りますの有無に就てえらく論ずる必要もない事です。所が前の句丈でいゝじやないかと言ふ主張の正面の意味は、先程申しました、善良なる性情の基礎が心身の健全なる發達にある言ふ、謂はゞ學的基礎に於て言ふのであります。殊にそんな事を強く言ひ度くなつて來て、其の人の心の裏には、善良なる性情を涵養し、なんと言ふ言葉を言ふ爲に或間違が起りやしないかと言ふ懸念があるのであります。善良なる性情を涵養し言ふ言葉に間違が起るかも知れぬ言ふ事は、善良なる皆様の思ひがけない事だと思ふのであります。その主張する人は不良なる惡人であるとお考へになるかも知れませぬが、幼稚園の色々な傾向を、つゞき議論でなく實際に就て眺めて——心配するか批評するかそれは何方か知りませぬが——他人の事を兎に角色々眺めて居ります者達に取りましては、何うも幼稚園の教育がしつこくなり過ぎる。昨日も山樹氏が色々さう言ふ事を申されましたが、しつこくなり過ぎる。あつさりやつて置く方がいゝのであるのに、何うも色々行き過ぎる危険がある。過ぎたるは及ばざるが如しじやない。過ぎたるは反つて害あり言ふ様な事を言ひ度くなる様な事實がある言ふ斯う考へて來てもいゝ。

これが知識的方面技能的方面に於てもさう云ふ問題が皆様の耳に始終響く事でありませう。或は又性情の涵養云ふ方面の事に就きましても、矢張り同様な事がある。そこで何うも幼稚園の教育がしつこくなつて困る。これを何ぞか幼稚園本来の淡泊さに遷す^{かへ}必要がある云ふ事を痛感して居る場合に於ては、善良なる性情を涵養しなんて言葉を変えて幼稚園の目的の中へ擔ぎ出す事が却つてその濃厚さを増しはすまいか云ふ取越苦勞か何うか知りませぬが、さふ云ふ腹が裏にあるのであります。今申上げて居ります事は、私申上げて居るのではなくて、色々な考を分解して居りますので、倉橋が申して居りますけれども倉橋曰く云ふ事ではありませぬ。何處か御馳走を食べに行つたに致します。——私の講習には數年來食物の出ます事が定例になつて居りますので今年も出しますが、何うも食物の例が私に極めてピンミ來るし、皆様にもピンミ來る様な氣持がする。——何處か御馳走を食べに行つた時に、「うんさうまい物を食はして呉れろよ」云々註文した時に恐る可き結果を生じないミも限らぬ。で「今日はそんなに御馳走をしなくてもいいぞ」云ひ度くなる。食物屋に行つてさう言ふのは矛盾でありますけれども、あの料理人が腕により、をかけて私の味覺を尊重して、胃腸を尊重しない料理人であつた場合には何を食はすか知れませぬ。これが恐ろしいから「今日はあつさりした物で……」云ふ事があるじやありませんか。皆様の中で「私そんな事を言つた事はない。幾らでもうまい物を出して貰ひ度い」云ひ仰る方があれば話がピンミ來ませぬが、それと同じ様な具合で餘計な事を言ふミ餘計な結果が起つて來ます。言はざるに如かず。食物屋に行つた時には黙つて居たつて食はして呉れるミ云ふ事に相違ない。そこで、黙つて居れば向ふが適當な物を出すかも知れない。それを「うまい物を食はせろ」云ふ事から濃厚な物が出る。それミ同様、黙つて居れば淡泊な涵養が出来るかも知れないが、善良なる性情を涵養せよ云ふミ、貴女方が腕によりをかけて、何んな善良なる性情を涵養するかも知れません。これが幼兒の胃腸を損ふかも知れませぬ。そう心配する人が、餘計な事は省かうじやないか云つた。大抵こんな事を言ふ

人は年寄でありますが、さう申しました。さう云ふ風な事も片方にある位の問題がこの二つの場所を讀下せば何でもない言葉の中に色々あります。

もう一つ申します。その幼稚園の教育が又しても濃厚になり過ぎる危険がある云ふ事は、何故濃厚になるでありませんか云ふ事を研究して見ませう。その第一は、幼児教育に當る方の教育的熱心に出発する事は勿論であります。餘りに熱心に御飯を炊いてお焦げを作る云ふ様な具合で何うも熱心の極、切上げ所がつかぬ。即ち幼稚園が濃厚になる事を局外の人は何のかの是非難致しますが、私は非常に感謝し、益々尊敬する。嬉し涙は斯ふ云ふ事であります。有難涙云ふ事も斯ふ云ふ事かも知れませぬ。この誤りの生ずる所以の事に就ては有難涙が出ますが結果に就ては悲しい涙が出る。そこで、悲しい涙の方を言ふ許りでなく、有難い涙がなければなりません。恐らくや皆さん御自身も、皆さんの熱心と幼児教育の本質との間に如何なる調和を圖らなければならぬか云ふ事が始終御苦心のある所以ではないかと思ふのであります。汗が出るのに涼しさうな顔をしよう云ふ事が夏の化粧の御苦勞であらうと思ひますが、それ所ではない。斯うもしたいあゝもしたいとお思ひになる熱心、さり乍ら幼児教育はそこに何う調節を圖らうか云ふ事が苦心で、この苦心が幼稚園の苦心の最も本質的なものであります。何うしたら私もつゝ熱心になれるだらうか云ふ苦心は相撲を取る時と同じであります。幼児教育の苦心と變りませぬ。何うしたら私の熱心が向ふに通じるだらうか云うてやるのは、これは或手紙でも書いて居る時の苦心でありまして(笑)壁別に教育の苦心ではありません。私なんかに時々ウインクをして下さる方がある。つひ通じないものですからじつとやつて、これでもかこれでもかこやられて、あの人の眼は何處へ附いて居るか正面に廻つて見度くなる事がある。斯う云ふ意味で熱心が向ふに通じない事が苦心、熱心は一ぱいに出る。…何うも熱心がいかぬさうだから半分にやるよ、三分の一にやるよ、一日置きにやるよ。云ふ様な方は至極簡単に解決し

て了ひます。然し一ぱいの熱心はさては幼児教育の本質を云ふ處で言へない。さては素人には分りませぬ。色の白い玄人でなければ分りませぬ。問題が其所に起つて来ると思ふのであります。

・乍然、その前に幼稚園の目的を云ふものに就て……若しもその熱心を寧ろ激發する様な言葉があつたとしたならば、尙更、其所の問題は難しくなつて参ります。善良なる性情を涵養し云ふ言葉がそんな風な惡戯^{いたづら}をしやしまいか云ふ事が、さつき申しました色々の當時の討議の中心點であつたのであります。其の點を苦心しなければ何でもないのですが幼稚園教育の……殊に徳育上に關するを申しますか……徳育なん云ふ言葉が實にしつこい言葉であるが、假に智育、體育を云ふ言葉と區別した分りよい言葉で徳育を云ふ言葉を使ふとする、その濃厚性を心配する者に取つては、この善良なる性情を涵養し云ふ言葉が實に苦になつたのであります。私は昨年……本年に延びましたが、幼稚園關係者大會が大坂で開かれましたのに出席を用意して居り乍ら萬止むを得ざる事情が起りまして、遺憾乍ら缺席しました。缺席した會の事に就て彼は申します事は言ふ可き事ではありませぬが、研究題材として此處で思ふまゝを言はして頂きます。文部省は其の會に向ひまして「幼兒情操の教育」を云ふ事に就きましての諮問案を出しました。私はその諮問案を見ました時に「又出したな」云つた様な氣持が致しましたが、但し何んなものが出ましたつて、何ふ扱ふかの方が問題ですから文部省はここに依りましたら「如何にして幼兒を惡黨にすべきや」云ふ諮問案を出したつて構はない譯です。其所でその大會に於て其の事を議せられた色々のものを拜見しました。誠に周到綿密加ふる所なき様な答申案が出来て居りました。何處をついて見ましても誤りは御座いませぬ。悪い事はありませぬ。況んや足らざる點はありませぬ。實に敬服に値するのですけれども、さうも何處か……若し誰かこの通りにやつても程度を何う、云ふ事が……これは言葉じや却々言へない。如何

なる情操に就ては十八度に教育すべし。如何なる情操に就ては二十三度に教育すべし。如何なる情操に就ては沸騰點以上に教育すべし云ふ事は却々書けませぬから、たゞその程度は言はないで書いて居る。其所へ實際家は熱心ミ來て居る。その熱心で行くミ百度になつて了ふ。さうなつた時に何うでせうか。一流の料理屋のあつさりした甘煮^{うま煮}を、もう一度蜜を入れて煮かへした様になりはしないか。これは私、卒直に感じた點であります。情操教育の必要が、誰にも分らぬ時代には、必要だミ云ふ事が大事な注意でありました。如何なる種類の情操を教育すべきかミ云ふ事が研究されて居ない時代には斯う云ふ事を落さぬ様にミ云ふ事が大事でありました。今日はもうそこは進んで了つて、お互の悩みは何の位の濃さで何の位の淡さで何の位の度で教育すべきかミ——質に屬する問題を量の言葉で言ふより間違の起り易い事はないが、分り易い爲にこんな言葉を使ひますが——そこに苦心がある。何うも却々出來ませぬ。私、答申案を攻撃して居るのじやありません。そこが却々書き難いものだミ云ふ事を、あの答申案を見て感じた。皆さんも多分さうじやないかミ思ふ事を此處で引用して居る丈でありますが、詰り何うも濃厚になり易い。情操ミ云ふ言葉が……假にあれが性情であるにしても、同じ様な答申案が出るのではないかミ思ひますが、濃厚になり易い。今でさへ濃厚になり易い危険が非常に多いミ云ふ時に、もう一度考へ直して見ますミ、この二つの句の後の句は却々これは曲者であるミ云ふ考へるのであります。これは何にも積極的の意味を具へて居る言ひ方ではありませんが、研究ですからさう云ふ裏を眺めて見るミ云ふ様な意味で先づ申上げた事であります。

そこでこれをもう少し正面からもう一度眺めて見ます。まあ此所で一行あくミ云つた様なミこころです。

これからもう一度眺めます。別に變つた事じやありません。次に、ミ云ふ事ではない。もう一度、ミ云ふ事であります。

心身を健全に發達せしめ云ふ事、善良なる性情を涵養し云ふ言葉、この二つはその關係が何うであるかは暫く措きして、この二つの言葉は、教育學上から申します心理主義の言葉倫理主義の言葉と斯う云ふ關係になつて参ります。或は倫理主義云ふものゝ持つて居る特質に對立する意味では、心理主義を自然主義と言つてもいい言葉であります。心身を健全に發達せしめ云ふ言葉の持つて居ります特質は、元來發達するものを發達させる丈でありまして、私常に申します。發達するものを發達させるので、私なんかにはあのせしめが難しい。幼稚園に來る子供は自ら健全に發達するものなりとぞ誠に宜しきことなり、云ふなら事は極めて簡單ですが、發達するに任せる云ふのでなく、せしめ云ふのが却々面倒なのであります。然しせしめを書いてあるのが、發達する云ふより少し人爲的な問題が這入つて居りますけれども工夫が加つて居ります。純自然的ではありませんせぬ筈でありますけれども發達云ふ事自身が教育學上では自然派の主張する所であります。發達主義教育學は所謂自然主義教育學云ふ中に這入るのであります。こんな講釋を此處で言ふ必要はありますまいが、お互が尊敬するフレーベル云ふ人は、その人の學說を教育史の中で何う云ふ種類の學說の中に置かうかと考へる時に、あゝ云ふ偉い人になる、金持が家を澤山持つて居る様な工合に彼方にも此方にも屬しますけれども、フレーベルのフレーベル教育說の價值は寧ろ倫理派の方に這入ります。宗教的の教育者であります。そこがフレーベルの深い價值のある所であります。所謂幼稚園云ふ方法を、昨日山樵氏の言はれましたフレーベル式幼稚園形態と言ひます。そのフレーベルの發達云ふ觀念に基いて居る事は申す迄もありません。その發達云ふ觀念に基いて居ります云ふ點は、フレーベルの自然主義教育者と言はれる所以であります。或は自然派の教育學者であると言はれ得る原因になるのであります。發達云ふ事に力點を置きます考へ方は自然主義であります。自然主義云ふのは教育の上に於ては非常に尊い、現代教育を網羅されましたものが自然主義でありまして、此方には健全に發達せしめ云ふ事があつ

て、善良とか惡きか云ふ言葉は少しも這入つて居りませぬ。私共、夏草生ひ茂る色々な花を見て、何所に善きか惡きか云ふ事を考へませう。善良なる蝶々不良なる蝶々、善良なる撫子不良なる薊云ふ事は申せませぬ。皆様はお伽噺の大家ですから自然迄も倫理化して御覽になる癖があつて「あのね、おいたの蝶々があつて困つたのよ」云々仰言る。自然界には善惡はない。たゞ、何きすくすく伸びて居る草よ、何き不完全に萎びて居る草よ、云ふ事がある。何き颯爽として居る蝶々よ、何き萎れて居る羽の病みほうけたる老蝶よ、云ふ事がある。これは健全か不健全で、善惡じやない。そこで、發達の健全性とは恐らく發達の自然法則が一杯に出て居るのを健全云ふのでせう。私、昨日も久し振りの方にお目にかゝりました。「何うも相變らず御健全で」云つて下さる。私も、「相變らず……」云ふ。私は學者ですから一々言葉をちやんこ考へる。自然法則に隨て生活して居ます。私は稍々老境に入りまして、もう幼稚園令が出ました時から見ます大層年を取りました。年を取つたら年を取つただけの自然法則で生活して居るのが健全であります。「大層若返りましたね」等云ふのは不健全であります。其所で、自然法則に基いて居るだけが健全ですから、健全から發達せしめる云ふのは、自然法則を一杯に發揮せしめる云ふ事であらう云々考へます。自然派であります。現代教育學說の共通の特色が自然主義心理主義にある云ふ事は改めて幼稚園のみならず一般にある云ふ事は申す迄もありませぬ。教育學說じやない、自然の考へ方、世の中の考へ方が自然主義的心理主義的であるのであります。それが善いか惡いか知りませぬ。善良なる性情を涵養し云ふ事は實に倫理主義で、涵養し發達せしめきは大變な違つた言葉です。これはお互に大事な點でありますから考へなければならませぬが、子供を夏お湯に入れます。暑い云々言つて居りますのを先づ裸にしてやるのは自然主義であります。母の懇ろに沸しました適當なる温度のお湯の中で涵養する譯ではないが浸す。これは自然じやありませぬ。裸にしましたけれども自然じやありませぬ。涵養する……これは後で申しますが到底自然だけでは出来ない事です。

涵養される事なんて聞いたつて……魚は始終水の中で泳いで居りますけれども人間は特に何うかしなければ……涵養云ふ事が、人間の努力に關する、工夫に關する所謂自然は反對の性質を帯びて居るに共に、善良なる、云ふ言葉は先程申しました健全云ふ言葉と對立すると同時に實に倫理主義の言葉であります。健全は何ぞや云ふ事は一通りの事で申せませぬが、さう難しい事じやないかも知れませぬが、善良は何ぞや云ふ事は人類始つて今日でも落着かない面倒な問題であります。人間が考へた事が面倒なのであります。そこでその人間が考へた、人間の中に行はれて來ました法則に就ての善良としてそれを頭に被らして居ります善良なる性情……性情云ふものが何んなものだ云ふ事は後に残して置きますが、それが何うであらうとも、上に附いて居る善良に下に附いて居る涵養が之が倫理主義の性質を多分に持つて居る云ふ事は言ひ得ると思ふ。實に昨日山楸君の話して呉れました事は、今日の私の話の前置きをした様で非常に嬉しい。この所謂自然主義倫理主義の對立、こゝに非常な問題があるのであります。山楸君の言はれました如く、教育學説はその人の生活……實に離れられない。人の生活を離れては教育學説は意義がない。生活を離れない云ふ事は、生活の大きな要素としてのその人の性質云ふ事が這入つて居りませう。倫理的性質の非自然的であります。これは吾々……皆様は多分倫理主義の方と思ひます。今澤山自然主義云ふ言葉を使つた時に其處に惡魔の顔が見える程倫理主義の方だと思ひますが……。此の間上野小公園で、子供を裸にして水を浴せてやつて風俗がいかぬ云ふので止められた。私共、幼稚園の子供が裸になつて居る可愛らしくて仕方がない。だから言つて皆さん此處で裸になつたら何うか知りませぬが、幼稚園の子供は可愛らしい。私はお伽噺の中で「蝶々が、あの一つ々々薄物の色々なものを着て來たのよ。冠を被つてお顔にお化粧してね」なんて仰言る方があるが、私側に聞いて居て醜惡と思ひます。あの蝶々があの上へ又ビーチコートか何か着て赤いリボンか何かつけて赤いものでも塗つて行つたら……吾々から見ると白粉をつけて居る様であるけれども、

彼女の地肌なんです。此方が必ずしも穢い云ふ譯ではない。そこで其の人の性分から見まして、これは私もよく知りませぬけれども、所謂教育云つた様な事に關係をする人は大體に於て倫理主義的の性質の人であります。これは私が言ふのではない。ドイツのスプランガーが言つて居る事であります。そこで餘りそれに重きを置き過ぎる云教育學説がしつこく、色々な間違を生ずる。熱心はいゝが間違が起る云ふ事になる。それを現代の教育者が、もう一つ心理主義的に直さう云ふて十年ばかり前に趨勢が強かつた。それで、あの幼稚園令の中にある二つの言葉は、何でもない云へば例でもないが、教育上の心理主義的自然主義の方面を主にして居る言葉云主にして居ない言葉云が竝んで居ります。あの幼稚園令の二つの言葉がある事に就て結論を先に申上げて置かないといけなから言ひますが、私はあの幼稚園令のあの書き方が宜しいと思つて居ります。片方でいゝ等云ふ事は思つて居りませぬ。善良なる性情を涵養し云ふ倫理主義的の價値の問題を、ちゃん云置き忘れては居りませぬ。善良なる性情を涵養し、云ふ事だけ主張して居る様な風が從來の修身の先生等にありませぬけれども、這に幼稚園令は、併せて、心身を健全に發達せしめ云ふ心理主義的自然主義の方面も忘れて居ない。これは二つあるので實に宜いと思ふ。其の兩方が實によく出来て居る。これは私の考を申上げた上で、此方に偏する方面の人はこれが邪魔になるでせう。其方に偏する方面の人はそれが邪魔になるでせう。けれども幼稚園云ふ事に苟くも關係のある……興味を持つ人は少くも幼児期に於きまして此方の意味が大事だ云ふ事を實によく仰言る方々のみでありますから、此方に片寄つた此方の問題を何うするか云ふ其所の問題に歸着致す、斯う申して宜いかと思ひます。

これで又一くぎりを切ります。詰りあの二つの言葉は何でもない事の様でありますけれども教育學説的には大變に違つた性質に於て違つた事が竝んで居る云申し度い。こゝから又一行あけて第三に這入ります。

價値の違つて居る自然主義的な言ひ方と倫理主義的な言葉遣ひでありますが、第一のところで申しました如く、實は健全なる心身の發達が基礎となつてこそ善良なる性情も涵養されること云ふ主張は、心身を健全に發達さへさせたならば、と言つて居るのでは決してありません。心身を健全に發達せしめこと云ふ言ひ方の方を取らうとは主張して居るかも知れませんが、それが即ち善良なる性質を涵養すること云ふ事に必然になるんだと言ふならばその論理のもこと言つて居る。彼等自身を健全に發達せしめこと云ふ丈でいゝこと云ふ説は、善良なる性情を涵養せしめ、を併せ含んで居るものとして主張して居る事となる。第一に言ひました事と第二に言ひました事と關係をつけて置きます。斯う云ふ譯で、この幼稚園の目的の研究の時に、其處が色々何でもない様な事ですけれども、問題をごちやく／＼引起して來ること云ふ事を御承知を頂いて置きます。

さて第三の所で續けて申しますが、先程申しました如く、幼稚園規則では、善良なる習慣を養成し、と書いてあります。幼稚園令では、善良なる性情を涵養し、こと云ふ全く違つた言葉になつて居ります。それで、その性情と習慣が、何所が違ふか……まあそんなに言葉なんかそんなに捉はれなくても確に分つて居ればいゝじやないかこと云ふけれども、今はさう云ふ法令を基礎にした事を……少くも今朝はやつて居る。其所で、習慣を養成しこと云ふ事は其の習慣と云ふ事の意味が色色に取られませうが、性情と云ふ言葉と並べて考へて見ますこと——習慣と云ふ言葉がボツツと一つ來た時には色々意味が取れますが——性情と云ふ言葉と並べて兩方の特質を見ますこと、一寸考へても斯う云ふ事が氣が付かないかと思ふ。習慣と云ふ言葉には何處さなき外面的な響きがあります。習慣とは、外から見る事の出来る或生活の外面的なものであります。性情となること云ふは、習慣に對しては内面的性質を多分に持つて居る。私は實に粗野な風をして居り乍ら心は實にやさしい

言つても必ずしも矛盾じやないかも知れませぬ。内面的なものは外面に現はれませうけれども、區別して見た時には斯う云ふ様な對立が考へられるかと思ふのであります。習慣ミ云ふ様な言葉は外面的な位ですから形式的であります。所謂いゝ習慣ミ云ふものは何ミなくいゝ形ミ云つた様な事になります。外面ですから形式になるのは當然であります。これミ應じて、性情の方は實質的になります。こんな事を私は習慣ミ當嵌めて始終考へて居る。習慣は外面的で性情は内面的で習慣は形式的で性情は實質的なものだミ斯う云ふ風に竝んで來るかと思ふ。或は又、習慣は外面的形式的なものであります、其所へ養成するミ云ふ言葉がある限りは……さうして善良なるミ云ふ言葉がある限りは或一つの規範的なものになつて來る。規範的に對して本質的ミ云ふ言葉を充てる。

習慣

性情

(1) 外面的

内面的

(2) 形式的

實質的

(3) 規範的

本質的

又食物の事を言ひますが、羊羹の切り方がよいミ云ふ事は規範的であります。私、お客に行きますミ若い奥さんがちやんミ切つた羊羹を出されるけれども、よく見ますミ確に物尺を充^{あて}つたな、ミ云ふ事が分る。食べて見るミ物尺の竹の匂がする事があるのであります。或人は「御懇意ですから御免下さい」ミ言つて實に積木ミは違つた色々減茶^{ちや}な見るからおいしさうじやありませんねけれどもこれは庖丁を入れないんですよ。況んや物尺なんかあてがはないのですよ。此の間下駄の寸法を度^{はか}つた物尺なんか使はないのですよ。けれども、羊羹の寸法を度^{はか}る事はしないが本質的にはおいしいのですよ。言ふから食べて見るミ、きちんとミして居るのが水臭かつたり、周圍が化石したりする場合がある。此方は本質的であ

りますがあれは規範的であります。こゝらが規範的、本質的の違であります。あの子は行儀が悪いけれども善い性質ですよ、ミ云ふ時は此方であります。斯う云ふ風な事ですから、方法の價值から申しますミ、習慣的ミ云ふ言葉は多分に結果的な性質を持つて居るミ思ふ。性情ミ云ふのは何所迄も習慣が付いたミか付かないミか云ふ結果的なのに對する基本的なものじゃないかミ思ふ。段々暑くなつたりしますミ、家で色々小豆を煮たりする事があります。私は實に悪い癖があります。して、ちゃんミ出來てから立派にお盆に盛られて出される前に臺所に行つて一寸やるのが好きです。「まだ駄目なんですよ。何れ結果的にちゃんミ出來てから差上げますよ」ミ云ふのに對して「それは其の時又食ふよ。けれども今は煮えて行くミ云ふ事が、こゝがうまいね」ミ言ふ。片方で料理をちゃんミして居る。これは私等が臺所に行つて斯うやるのが目立つけれども、皆さんの様に自らやつていらつしやる方は、途中で吸物なミを吸つて見る。「私は料理をしましたから鼻について……豈計らんや口に附いて居る。」

私は、昨日皆さんが外國の話を読みましたから負けぬ氣で外國の話を読みます。ラインの河岸を船で秋、旅行しました。葡萄の採れる頃……。私はさう酒を嗜む人間じゃないけれども取立ての葡萄の新酒が飲みたくてたまらない。バリで飲んで居る葡萄酒は、倉から出して來て何年ミ言つて古くこつてりミしてたまらなく美味い。少くミも金を澤山拂つて居るから美味いミ思はなくちや癪に障る。何年かの間あの倉の中に入れて置いて、これが本當の味だミ言ふ。私、それも結構だけれども、私の様な人間は、斯うちゃんミ結果的に出來上つた葡萄酒が美味い許りでなく、出來かけの葡萄酒は何んなであらうかミ云ふ事が一寸興味が出る。態々ライン上流に行きまして、まだ醗酵しない、レットルを貼らない生の葡萄酒を其處へ行くミ飲まれる。それはバリのレストランで飲ませる饅頭の上等ミは違ふ。生です。漉いです。甘味が出ませぬ。本當の葡萄酒の味ではないでせうけれどもそれで實にたまらなくいゝ所がある。葡萄酒が何うか知らぬが實に葡萄であり

ます。ブンミ來ましてね……。その基本的結果的習慣ミ云ふミ「今日斯う云ふ習慣を養ひませうね」ミ約束して来る。私、見に行きますミ皆さんが、「もう一月経つて來て下さい。其の間には習慣をつけて置くから……」ミ言ふ。それは習慣がついて居るが結果的であります。私、幼児教育を實に生々しさに於て何時でも味つて居りますが、私共大人の世界に行けば生々しさが無い。立派なものがあつて生々しさが無い。幼稚園に行くミ實に生々しい。私は實に嬉しい。實に愉快、實に一分の隙もない、たまらない、實にいゝんです。いゝんですが私時々田舎の娘さんに會ひ度くなる。特定の人がある譯じやありませんが（笑聲）……會ひ度い、その田舎の娘さんは、結果的にはなつちよらぬがいゝ所がある。私の様な贅澤者は……確に贅澤です。バリジャンがあんなに自慢して居るのを嫌らないミ云ふのは東京から行つた贅澤者のする事ミ思つて居ります。キチンミ出來た習慣を喜ばないのじやない。喜びますけれども。粗野なんじやない……くれぐれも申します。ライン上流へわざミ私は出來損ひの新葡萄酒を飲みに行くのじやない。これは搾り損ひです、搾りが足りないで腐りましたミ云ふのを飲みに行くのじやない。實に……本當の生搾りを飲む。本當の生搾りミは、斯う云ふものを二十年倉の中に入れたならば本當の葡萄酒になる事をちやんミ約束されて居る生酒であります。私が田舎に行くミ、出て來るのが田舎じやあるが田舎的に習慣が附いて居るのを見る。田舎の料理屋で田舎のミスシガーが私の側に來る時はがっかりする。これは都會のあの出來上つて居るのよりは少しくずれる。けれどもあのおばこ、本當のおばこ……田舎娘に會ひますミ、「なまじ東京に出さないでこのまゝにして置きなさいよ」ミ言ふ。木曾の谷川で誰も居ない所で、おたさんが歌つて居るのを聞いて、あの木曾の流れで洗練された歌で歌はして置きなさいよ、十年先に會ひに來た時に立派な者になつて居るだらう、ミ言ふ時に安心した生々しさに屬する。「何うもあなたは硬いものがお嫌ひでごろ／＼な處がお好きな様だ。これは少し腐つて居るが……」ミ云ふのではない。

其所でこの結果的ミ基本的ミ……これだけで何ミなく習慣よりは性情ミ云ふ言葉の方が幼児教育に相應しいミ云ふ事は分りませうと思はれゝばこそあゝ云ふ風に變へるんですが、私の言はうミするのはそんなこつちやない。

又問題を元に返して、健全なる心身を發達せしめ、ミ云ふ言葉ミ、善良なる習慣を養成し、ミ云ふ言葉はこれは何うしても繋がらない言葉です。心身を健全に發達せしめ。善良なる習慣を養成し。だから子供が二重生活をして居る。「お母さん、海水浴に来て居る間、善良なる習慣は少しも構はないで健全に發達すればいいの?」、「さうだよ。けれども家へ歸つて海邊の子供の様に居てはいけないよ」。「今日は誰も居ないから健全なるのびのびでいいの、お客のある時は……」これが苦しいです。勿論大いに深く行けば——餘りミ言つた方がいいですね——餘り深く行けば健全なる發達が本當にいい習慣になるかも知れませぬ。これは何うも餘り深い話であります、何うも健全なる發達ミ云ふ事ミ、習慣ミ云ふ……外面的な形式的な結果的なものは繋りませぬ。これに對して、内面的であり實質的であり、規範的本質的性情の涵養は抑々健全なる發達ミは内面的實質的本質的規範的なものでありますから、これは繋がる言葉じやないかと思ふ。繋つて居れば、折角繋つた方がいゝじやないかミ私は思ふのであります。

其所で私はこの一くぎりのお話を終りますが、前から色々な餘計な様な問題を、ごちやごちやして來ましたが、さて私は斯う今の所で落着いて居ります。健全に發達せしめるミ云ふ事ミ、性情を涵養するミ云ふ事ミが必ずしも一方を言へば一方を言はなくてもいゝミ云ふ程一つの事ではない。これは又申します。これは確に二つ言ふ必要のある所であります。けれども、二つではあるけれどもその關係は、鹽も買つて來い砂糖も買つて來いミ云ふ切離されたる二個の對立ではない。其所に實に關係がキュツミあるのだミ云ふ事を言ひます。若し皆様が此の關係をキュツミ認めて下さらなかつたなら

ば、善良なる性情の涵養は恐らく何處に行くか分らぬ様に行過ぎて了ひます。健全なる發達云ふ事に何所迄も結び付け、結び付けたる意味に於てこの善良なる性情の涵養をお考へになつた時に、願くは幼稚園の性情教育から餘りに濃厚なる事を防ぎ得るのではないかと私は思ふのであります。何んなに、立派な性情が涵養されて居るかの如く見えましても、心身の健全性を失つて居るので若し、萬一あつたならば、これは幼稚園の目的には合しない云ふ事は此所から結論し得ると思ひます。

うるさいですがもう一度申します。發達は發達、性情は性情、斯うしたならば、皆さんの熱心は何所迄も健全にする如く。何所迄も善良にする如く行くかも知れない。これが附かず離れず云ふよりもつゝ密接な關係で繋つて居る。その有機微なる點を失はないでお出でになつた時に誤りなく行くと思ふのであります。私の處に「私の幼児教育の目的は斯うですが聞いて下さい」「仰言る方があつて滔々論ずる。私は「何うも有難う御座いました。さう云ふ目的で、幼児でなく私を教育して下さいませぬか」言ひ度くなる。

「いやあなたじゃない。これをあの幼兒に持つて来る」「仰言つた時に、「一寸待つて下さい」。私ならその濃厚なる教育を充行^{あてが}はれても其の中へ涵養の形でつけられても私の健全なる心身の發達は阻害されます。もう發達しやうがない。ですから此の上は仕方がない。私自身情なく思ひます。本當に發達するものが止んじやつた。上塗りより仕方がない。上塗りは餘り情ない。ですから、發達じやない、上塗りでもない。妙な造り直しをしようと思ふに實に苦しい。吾々の様な年にはつて自己の精神に本當の教養を苦勞します時に、發達の自然法則による事も出來ず、上塗りの誤魔化しに落着けないで造り直さなければならぬ。もつゝ發達する時に、發達に到つて善良なる性情を養はれて來たならば、何も人を恨む譯ではないがさう思ふ。そこで、此の關係を斯う分けたのは、これじや何うしてもあれに結び付きませぬが性情なら結び附

く云ふ所から……言葉のあや、やなくて結び附くから結び附けていゝ。私は申すのであります。もう、一つだけどもそれが一つのものじゃない。精神を健全に發達すれば善良なる性情は自ら生ずる事である。斯う言つて居られない點をも一つ考へる必要があります。

これは今日は一つも觸れて居りませぬが、残されたる問題としてこのお話の中で後で申しますが、こゝの所を一つ考へる。實に、善良なる性情を涵養し云ふ事は、机の上で善良なる性情は何ぞや云ふ事を考へるのはちつとも難しくない。倫理學の本を少し讀んで、必要なる人間の要素を少し詮索しましたら大抵見當がきます。それは落ちたり足りなかつたりするかも知れませぬが、大まかな所は見當がきます。如何にして健全なる心身の發達に副つて發達して行く可か。自然なる發達は離す事は出来ないが、それだけではない。善良なる性情の涵養は教育の仕事にはある。それが何うだらうか云ふ事が問題ではないかと思ふのであります。

前段に申上げました事をもう一度要約致しますが、前段に於きましては性情の涵養云ふ言葉がありました。保育學の言葉としてよりも幼稚園令に使つてあります幼稚園の目的の中の言葉である云ふ事に即しまして、色んな事を考へたのであります。之を考へるに就きまして、身心の健全なる發達云ふ事と善良なる性情の涵養云ふ事の、その關係がどんな風であるか云ふ事を見まして、言葉の上から見ます。之は一方は自然派の教育學的な言葉で、一方は倫理派の教育學の方の言葉である。其の意味に於ては之が二つの別の事の様に見えますが、併し性情云ふ言葉に重きをおいて考へて、特に便宜上古い幼稚園規則で使つて居りました習慣云ふ字と比較して考へて見ます。習慣に對して性情云ふ言葉があゝ云ふ色々の特色を持つて居りまして、その特色は倫理的ではありませんせぬけれども——元來が倫理的ではありません

ぬけれども——あの特色に即して見ますと、内面的であるとか、實質的であるとか、本質的であるとか云ふ様な點に於て自然派の——自然主義的の考へ方と、聯絡し易い關係に居ります。其處でこの二つは二つの事であり乍ら關係が立派について居り、つかなければならぬものではないか、と斯う結論を致したのであります。若しその結論が誤りなし、としまするならば、さう結論する事によつて保育の實際の上にこんな現はれが出て來るかと言へば、保育の濃厚性に對しまして、所謂自然派の方の淡さが加つて参りまして、その濃厚さの餘りに甚くなる事を防ぎ得るんではないかと言ふ考へたのであります。更にもう一つさう申して参る、と云ふと如何にも善良なる性情を涵養し、と斯ふ事の濃厚さばかり氣にしまして——如何に淡くするかと云ふ事を考へるのみで、従つて健全なる發達と云ふ事以外に一步も出來ない事であるかの様に聞えますが、さうではない。此處に善良とか性情とか涵養とか云ふ言葉を特に使ふ如く、又大きな考へるべき問題があるのである。斯う申上げたのであります。

この事を更に一寸違つた言葉で言ひ現しますと違つた言葉で同なじ事を申しますると、健全なる發達と云ふ事は、先程價值と云ふ言葉を私不用意に使ひまして、皆さんの頭を混亂さしたかと思ひますが、健全なる發達と云ふ事は自然であります、健全なる發達と云ふ事は矢張り價值の問題であります。でその値打、價值、或方は價值とお讀みになる方もあるかも知れませぬが(笑聲)、その價值は價值ではあります、自然價值と云ふ方に屬します。善良と云ふ方は文化價值、自然價值に對して文化價值と云ふ言葉が當嵌りませう。

其處でこの簡單な言葉を使つて先刻の事をもう一度言ひ直しますと、幼稚園の目的は自然價值を大いに發揮する併せて文化價值を忘れる事が出來ない。併し文化價值と云ふものは何處迄深まり、何處迄高まるものか解りませぬが、その濃厚さに對しては自然價值の方から考慮されて行かなければならない。さう申して宜しいのであります。

二、性情と云ふ事に就て

第二の問題として幼稚園令第一條なんて事を離れまして、性情と云ふ問題にぶつかつて行きます。

前の習慣を養成し、と云ふ時代で、性情を涵養し、と云ふ事になりました頃と比べて、性情を涵養しと云ふ方が内面的實質の本質的でありますから、事がやさしい様に考へる人が若しあつたならば、それは大變な間違ひだと思ふのであります。習慣をつける事は難しいが、性情を涵養する方はさう難しくないと思へる人があつたら大誤解であります。寧ろ私は反對に斯う思ふ。若し幼稚園令の示して居ります幼稚園の目的が普通通善良なる習慣を養成しと云ふ言葉が使つてあるのでしたら、私共の仕事は極めて簡單です。恐らくこの夏皆様も私もこんな事で汗をかく必要はないと思ふ。善良なる習慣を養ふと云ふ事でしたら、善良なる習慣はどんな事だらうと云ふ事をブラツと調べまして後はまあ何か習慣をつけさへすればいい。家の子供が高尙であるが、習慣をつけるに何うするか。家の子供が亂雑であるからキチンとさせます。まあ皆様が電氣アイロンでも御かけになります様な事で済んで了ふ。所謂躰方なんかと云ふ事で済んで了ふ。それが性情の涵養と云ふ言葉になつて居るので實に事が難しくなつて居るのであります。

もう一度先程の習慣と性情について竝んだ様な形で考へさして頂きますが、習慣を養成しと云ふ意味の、今度は養成するとか涵養するとか云ふ保育の實際について問題を考へるに、習慣と云ふことは餘程機械的な事であります。機械的であります。何う云ふ習慣がついた、つかないと云ふのですから機械的であります。方法も機械的になるかと思ふ。之に對して性情を涵養すると云ふ方面は餘程機械じやなくて——勿論習慣だつて人間の場合に本當の機械じや出来ないものでありま

すが——餘程機械的でありますが、性情の方は一層生命的であるかと思へられる。いゝ習慣をもつて居る云ふのは、生活の機械的の訓練の下に置かれた云ふても濟むのであります。善き性情を持つて居る云ふ事は機械的訓練等では到底養はれませぬ。で其處に如何なる生命が涵養されるか、生命が主になつて動いて居るか云ふ事に歸着致すと思ひます。それから又習慣云ふならば、之は物理的と言つても宜しいかと思ふ。帽子にも習慣あり、手袋にも習慣あり、履き慣れた靴にも習慣あり。即ち物理云ふものは繰返す事によつて或一定の形をこるもので物理的のものである。之に對して性情云ふのは何うしたつて物理ではないので、何う云ふ言葉を使ひませうか、精神と言ひませうか、心の問題であります。又所謂キチ／＼行かぬ問題であります。又之をその機械的なるもの、物理的なるものを養成するに就ては、所謂方法的な行き方で行けると思ひます。習慣養成法云ふものは實に方法的であり、メソドロジカルな行き方で行くと思ひます。之に對しまして性情を涵養する云ふ處はさうも單純な方法では盡せませぬ。生命的にして精神的なものを造り出すのは方法じや出来ませぬ。之は甚だ曖昧な言葉でありますけれども、方法に對して假に生活的云ふ言葉を使はれます。習慣は生活を見ても造られるかも知れませぬ。機械的なる物理的なるあの習慣は生活云ふものを考慮せずして生活の中を離れて造り得るかも知れませぬが、性情の涵養に至つては生活を離れては絶対に出来ませぬ。若し皆様が習慣養成の方法として御研究になります場合は、一定の時間一定の方法によつて繰返して行きます時には或習慣がつかぬことも限りませぬが、性情に於てはそれで出来たものじや矢つ張習慣であつて性情じやない。實に難しくなつて來るのであると思ひます。即ち之を要するに習慣養成は簡單である。性情の涵養は極めて複雑にして機械的な細やかなる複雑にして機械的な趣きを持つて居るものであると斯う致したのであります。さう申し得るかと思ふのであります。

其處でさう云ふ事を考へました時に、この性情云ふ言葉を何う云ふ風に考へて行くか云ふ事が却々容易ならざる間

題になります。

一寸此處で又餘計な事を一つ挟まして頂きます。幼稚園に限らず教育の研究の場合に於きまして、體育智育德育云ふ字は妙な言葉ですけれども、まあさう分けて見まして、その體育智育の事を考へます時には比較的自分云ふものを退け、さいても考へられるかと思ひます。斯う云ふ知識を何うするか、知識を何處迄上げるか、何う云ふ技術を養ふか。弱い者を如何にして丈夫にするか云ふ様な智育體育の問題に關する限りに於ては比較的教育云ふ事だけを考へれば濟むんであつて、自分云ふものを離れて考へられるかと思ふですから自分が教へるに足るだけの知識を今持つて居れば智育が出来るかも知れませぬ。體育に關する原理をさへよく知つて居ればドン／＼出来るかも知れませぬ。それでもですね。さう云ふ智育體育の場合でも教育が本當に旨く行きますには自分云ふものが他に關係して來る様です。可笑しな話ですが數學なんか習つて居ります時に、餘り數學の天才的な先生に習つて居るに解りませぬ。何故ならば其人には一般の人の問題になる事が問題にならない。ですから考へて居て「斯う／＼／＼／＼あゝ」云ふつちまふ。之は習つてゐる方でそれを寫しておく事は出來ます。本はさう云ふ數學の高級な學術研究者の書いたのがいゝのですが、習ふことになるに、私なんかは數學教授者になりましたら最も適當なる數學教授者であると思ふ。凡ゆる數學の問題が生徒よりも私の方が難しい。ですから此處が解るまい、之が解らない、斯う間違ふかも知れぬが、斯うなるんだよ、云ふ事が生徒よりも私によく解つて居りますから、實にいゝ教授が出来ると思ふ。唯残念なる事に餘り私が餘りいゝ教授者である爲に「難しいよ。難しい。此處は解らなくて困るね。さうも矢ッ張解らぬね」云ふ事じや數學教授にはならない。實に困ります。偉い天才は「解らぬ事あらむや」云ふさう云つて了ふ。解らぬに「何故解らぬのか」と思ふ。「何故之が解らぬのだらう」と思ふ。私なんかの場合には生徒よりも先に解らないから生徒より先に「さうかな。一層僕には解らない。困つたな」常に數學の時間は涙をもつて

終るのであります。之でも困るけれども、さうも作文を直します時に、文章の非常に旨い人、天才的に文章の旨い人は人の文章を見て、生徒の文章を見て「なつちよらん」直してやるより俺が書いてやる。其方が非常に早い。處が之は數學の場合に少うし違つて「成程書難いねえ」云つて、ぬつたり書いたり、書いたりぬつたりして居れば、大變な事になつて了ふ。唯作文を直す先生が自分でも文章の苦勞した事のある人に就て、自分は斯う書いてしまふが、之が自分の悪い癖だ。自分には斯う云ふ文體の癖がある。斯う云ふテニハの使ひ方がある。長くなつたり短くなつたり、自分が書いたものを寢かしておいて明日見るに解らなくなる時がある。さう云ふ苦勞した人は「あゝ俺も同なじ間違ひをして居るな、斯うよくやるんだが此處は斯うしなければならぬ」その書方の相手に何う通するか云ふ事に就ては、其處の處、實に自分が苦勞して居りますから人の文が直せるに云ふもんじゃないかと思ふ。智育であつてさへも、自分が忘れ易いと思へばこそ、向ふの人も忘れるもんだと思つて二度のものは三度繰返しく私なんか餘り察しがよすぎて屢々皆さんに失禮をします思ふ。私が考へ乍ら話して居るものだから——決つて居る事をベラ／＼言ふのならば何でもありませんが——考へ乍ら話して居るものだから、お解りになるまいかと思つて……この中に何パーセントの頭のいい方は二度目から居眠りをしていらしつてもいいと思ふ。又新しい事を言ひ出したらバツチなさればいい。甚だ失禮な事を言ひますが、知識的教育もさうじゃないかと思ふ。之は誤りか誤りでないかはつきり解つて居るんですからドン／＼やつて行けばよい。

けれどもこの性情の教育なんて事になつたら自分自身が性情の問題に就て悩んで居る人でなければ到底出来ませぬ。スラ／＼／＼／＼自然の發達が、即ち聖人君子にひゞり／＼になつた人には性情の教育を人にする事はさうも難しい様です。又自分自身が性情の教育なんて事に、人を教育する爲にこそ、善良なる性情とは何ぞや、云ふ事が問題になつて来る。自分の生活にまつては善良なる性情を生れてから考へた事も悩んだ事もない云ふ人にはこの問題は徹底的に取

扱はれませぬ。私は常に申します。幼稚園教育者に限りませぬが教育者にあつて、完成したる聖人君子、徳高き人でなければならぬ。私は私言ひ度いんですが言ひ度くないんじゃないんですが——言へない。「何故か」ミ御聞きになれば、若しさう言つたら私はさう言つておいて直ぐに濫に身を投じなければならぬ。自分が死ななくちやならない。それは言へない。聖人君子ならましかば、ミ思ひますが、かばもいゝがばかでも濟む。唯自分が苦勞してりやいゝミ思ふ。苦勞してない人間には、今迄苦勞をした事のない人には教育は全然出来ませぬ。斯う私は言ひ度いんです。幼児教育に就て何故本當に幼児の身心の健全な發達を計りつゝあの性情の、あの自分でも苦しくて悪い事をして居ります子供の其處の心根に觸れて行く事が出来ないで、本當の性情の教育が出来ないがミ云ふのは、先生が多分のきだからだミ思ふ。辛うじて物理的に生活を訓練し機械的に生活を訓練し規範的に生活を訓練し方法的に自分を律して何時の間にか卒業して居る人だミ其處が旨く行かぬのだミ斯う私は考へる。其處でこの性情の教育ミ云ふ今回の悩みは、私は誰方かに御目にかゝつて今度は兼ねて研究して居る事だからお前の話を聞きに行く」ミ一月ばかり前に誰方でしたか仰有いましたが、其時私は「今度は幼稚園の話だか何ですか解らないんで……何うかその御心算で」此間そんな事を申し上げました。一昨年は保育法の眞諦を申しました。爾來私は「眞諦さん」ミ云ふ「布袋さん」の弟分？「眞諦さん」(笑聲)「眞諦さん」之は方法論なんですから樂なんです。けれども性情の問題になりますミ、ミ其處ん處が實に——方法は教師が幼児に、幼稚園ミ云ふ場所ですうして行くミ云ふ條件内の問題ですが、性情ミ云ふ事になるミその條件なんて事より、もう一つ奥に問題があります。其處でまあ何うかお聞き下さる場合には何うか、そのまあ、幼児の事ミ、自分の事ミ、私は皆さんに道を説かうとして居るんじゃないませぬが——そんな事をすれば罰が當ります。眼が潰れますが——性情ミ云ふ事自身がミさう云ふ風のものですから、自分を退けておいて理化學の實驗でもする様にやつて居たんじや解りませぬ。先刻淡くミか濃くミか言ひました。何ミも言

へないと言ひましたのは其處であります。理科の試験をして居る人は何度言ひませう。淡く言へばさうも性情がしつこいね。私は親切な人間だがしつこい。濃厚さ云ふ言葉も出ました。私は人を妨げない人である。人の邪魔をしない人である。だけれども私に冷淡さがありやしないか考へた事のない人でない冷淡さの問題が解りませぬ。だから其處の處は兎に角私も自分の事しか言へないんです。言へないんです。

其處でさう云ふ事を一つお含み願つておきまして、一體性情云ふ言葉はこりやあ何だらうか。心理學には性情云ふ様な言葉は餘らないでせうと思ひます。あるかも知れませぬが。殊に私共この不可ない事ですけれども學問上の言葉を外國語のキチツとした言葉に當嵌めて之を違ふ、なんて事を當嵌めて之は何の外國語に當嵌まるか、なんて餘計な事ですけれども、自分の持つてない目安で、物差を持つて來てものを計り易いのですが、性情云ふのはどんな言葉に當るのか、其處の處が私よく解らない。唯私こんな風に考へて見たんです。性情云ふ字は「人情」も書いてないし「性格」も書いてないし、何だかかう兩方くつくれた様な氣持がする。其處です。こりやあ決して結論じやありません。色々御意見をも伺ひ度いと思ひますが、一應は斯う云ふ風にして考へて行つて見度いと思ひますのは「性格の情的要素」斯う考へた。「性格の情的要素」この性の字を活かして性格の情的要素、或は之を方面と言つてもいいかも知れませぬが、何方でも宜しい。性格の情的方面でもいい。この性の字を情の字を何うかそんなにするこじつけが旨く行きます。

性情云ふものが教育の目的である事は之は一致して居ます。如何なる教育も其人の性格を如何にするか云ふ事は、最後の目的とする事は非難する者はありません。それが赤坊の教育であらうとも幼児の教育であらうとも少年の教育であらうとも青年の教育であらうとも、大人の自己修養であらうとも、死ぬ迄變りませぬ。人間の修養の目的は性格であ

ります。キャラクターであります。その他に教育云ふ言葉を使ふのが可笑しいんであります。幼稚園の目的は性格を教育するにあり、言つて誰も非難しないです。勿論幼稚園だけじゃないんです。教育云ふものは何も幼児の教育は幼稚園で済んで了ふものじゃない。教育は常に何處を、何の年齢を相手にしようとも其人の一生を考慮して居るのが教育的考慮でありまして、其處に皆さんは幼児を預つていらつしやるから、此の子の一生の性格教育を日夜していらつしやる事は勿論で、「まあ性情だけ教育して出しちまへばい」。出しちまへば……後は後で何うなるか知らぬ、云ふ事じゃない。

此の子の一生の人間としての教育をする爲に只今の教育的方面、教育的要素に重きをおいて居る、斯う云ふ事でありまして、性格が感情ばかりでない事は勿論、色々な複雑なものから出来て居ります。其中で情的方面を重きをおいて居るんだ、斯う云ふ意味に解釋していかせませう。性格には意志も這入つて参りますし這入つて参るんじゃない。意志が性格の中心でありませう。青年教育に於ける性格教育は恐らく意志を中心に致すのでありませう。その意志の教育に對して少年期に於て既に徐々に向つておさ／＼注意怠りなき教育が必要であります。幼児期に於きましては意志の問題は私の一刻も忘れざる問題でありますが、幼児期に於ける意志は感情要素に非常に密接にくつゝいて居る意志要素の様であります。——凡て分ける——分類して比較したくなる拙い癖になつて居るんでありますけれども——其處で意志を忘れて居るんじゃないが、情的要素方面を、此處の處では先づねらつて居るに申して宜しいと思ひます。知識の如きは性格の上に於て餘程重大なる問題である。「彼は偉大なる性格者にして併乍ら無智である」なんて事はどうも言へない譯でありませう。頭は悪いけれども性格がいゝなんて事は、性格がお尻か何かにぶらさがつて居る様です。どうも其處に於て知識云ふものは大事です。大事ですけれども之は幼児期に於てはもう少しゆつくりした態度で掛つていゝじやないか。斯う云ふ風な意味から性格の情的方面を、幼児期に於て、性格教育の爲に重んずる。幼稚園では性格の情的方面をや

るだけだ。頼まれて居るんじやありません。性格教育の爲に、その性格教育の爲にその情的方面の教育をやるのであります。更に改めて申す迄もない事ですありますが、その情的方面こそ後に至つて眞實に養ひ難いものであります。情的方面、あれは先程申しました身心の健全なる發達の自然の中に於てのみ本當に養はれるものであつて、自然の發達の止つた私人が今更感情教育をしようたつてどうも出来ませぬ。鉢巻をしたり、襷をしたり、齒を喰縛つたり、意志の教育をする事があります。之は未だ却々頭がまるきり駄目になつたのではありませんから、勉強して意志を鞏固に致しますが、感情方面は何うにも斯うにもなりません。固つて了つて。溶かさうと思つて水を入れたりする。水と感情と交る、かき廻しても本當にかき廻らない。美はしき感情の側に居て何と私には感情が傳はらないでせう？花について美しいと思ふ心は起りましたが昔より減つて……減りやあしないんですが、殖えやしない。どうも感情は身心の發達の時期に於て養はなければ到底出来ない。云ふ事は言へ様と思ひます。さう云ふ意味から言ひまして性格の情的要素云ふのが性情である。斯うして置ませう。

その情云ふのはまあ心理學的に言へば、感情であります。今申しました意志だの知識と並べて言ふ感情であります。感情云ふものは心の中だけで、何だか知りませぬが、こつちの経験であります。此方の経験でありますけれども、感情の種類でも云ふものをまあ分けて見ようと思へばこつちの中だけで種類を分ける場合もあります。けれども大抵は他に就ての感情ミ、斯う云ふ事でもものに會へばそれにぶつゝかつて行く。それで把握して行く。感情は反應でありますから——所謂感情反應でありますから、感情反應は何のもので反應して居るか云ふミ、種類分けをして行く事が便利の様であります。本能なんかを心理學で御承知の如く見ます云ふミ、實にその中に色んなものによつて反應する力が本能の中にあります。この運動本能が教練を経ました大人の人間の場合におきますミ、大きく分けて私は何と申しますか、適當なひびり、で

に言ひ現はす言葉がありませんが、形式感情と實質感情でも云ふ言葉を使ひませう。之は心理學者が使つて居る言葉であります。形式感情と云ふのは何う云ふのか言ひますと、形式的のものに反應する。形式的な事に反應して行く場合、こんな事を抽象的に言つても理解になりますから、不完全乍ら具體的實例で片付けますが、花を見ていゝ恰好である言ひ、いゝ色であると言ふのは形式感情であります。つまり感覺的な方面等に結びついて來ます感情を感覺感情と言つたりしますが、餘^かまり細かく分けますとごちやゝしますから、私、形式感情と言つて了ひます。所謂皆様がよく藝術的情操等と云ふ事を仰有います。藝術的情操と云ふ事は明後日あたり大いにいぢくり廻したい言葉であります。藝術と云ふものに對して感情の所謂美と云ふ様なものに對して感情の淡い人、鋭い人があります。實にものを食べても旨いものを食べても平氣な人もありますし、美しい繪を見て、何うでもよい人もありますし、一寸この色が斯うなつても氣になる人もありますし、要するに色なら何でもいゝ人、食物なら何でもいゝ人があります。之は藝術なんかに對しては形式的感情の發達と私は斯う言ひ度いのであります。勿論間違へちや不可ませぬ。例へば高い藝術家は形式感情だけ發達して居る人だと云ふのはありません。藝術家は藝術家として普通人より違つて居る點に於て美と云ふものを感ずる形式感情が發達して居ると斯う言ひ度いと思ふのであります。まああの色んな事に關する通なんかを言ふ人、或は通人を以て任ずる人は形式感情の極端に至つて墮落した様なものであります。詰りまあ何です。美と趣味とが云ふ事に大變優れて居る感情であります。この形式感情と竝んで實質感情とは何か言ひますと、人間に於て最も實質的なものは自分と似たるものであります。自分と似たる實質が最も本當の實質でありまして、言ひ換へれば人間味と人間的とが云ふその處に觸れて行くのが實質感情であります。藝術は人間を離れるものか何うか知りませぬが、離れて居る。私この間私の子供の机の上に夏目漱石さんの「草枕」が置いてありましたのでひさしぶりで讀んで見ました。あの書出しの數頁は小説の形に書いてある

が、大なる美學論、夏目先生の美學論でありまして、一番初めは何でしたかな。知に働けば角が立つ、情に棹させば流される。意地を通せば窟屈だ。こかく人の世は住み難い。何處へ行かうか。何處にも行く處がない。つく／＼行く處はありませぬな。行く處がないんだ。人間の中に居ながら人間の住み難さから超越して行かうとする處に美が生れ、詩が生れ、美の世界が展開して行く。その繪が生れ、詩が生れ、美術が出る、ミ云ふ書出しでうミ了ひに行つて、あの草枕の主人公「お何さん」でしたか。「お何さん」の最も極致なる現れは、非人情であります。あの草枕の中を歩いて居ります畫師は人情から離れる、無人情じやない。不人情ではない。不人情ミは實に人情の極致ですからね。不人情は人情の非常なる極致であります。私の様な餘まり普通の人情に溶くし過ぎて居る者は不人情なんて、扱ひに病的人情感を味はされて居る。それじやない。非人情、人情に非ず、非ざるその非人情で、畫師が雲雀（くもづ）を見て、其處らの花を見て、氣狂ひの女を見ても非人情かなと思ふから人情になる。で、その中に美を見るんです。畫師は非人情で通さうと思ふんですけれど、矢張り人情になる。斯う云ふのであの草枕が出来て居ります。まあ若しお讀みになつて居ない方がありましたら、よく讀んで非人情論を研究して御らん下さい。皆さんその草枕を御存じだらうと思つて例に引いたのです。美學の本を見れば澤山書いてあります。美ミ云ふのは非人情だミ云ふ事で説明出来るか何うか、美學の論は此處で申しませぬが、妙なくもさうふ風な論は多い。さう云ふ方面もあります。其處でその非人情ミ云ふのは何でせう。向ふに對して情がないミ見るんでせう。此方の情を自分ミ同じ情を向ふに入れないんでせうか。此方も入れないんです。此方の情を入れたならば、人情になる。人情になります。皆さん御綺麗な方ですから色んな人が寄つてたかつて愛を囁くでせう。よく御注意になりますか宜しうございます。老人は御注意申し上げます。皆様の御器量を見て美的感情で皆様を禮讃して居る人があるかも知れない。殊に皆さんは人の美的感情を喚起すべく種々に御苦心になつて居る方もある。私の様な美的感情の餘ツ程發達して

居ない人でも、あゝ迄やられてはつひ繪でも見る様な感じが致します。その美的感情の外に人的感情ミ云ふものがあります。人的感情、人間感情。そこで此處の論を長くして居たら限りありませんから、この性格の中に情的要素ミ言つて之は美的形式感情であらうか、人情だらうか、ミ云ふ事だけを考へる。私は此方を人間感情の方だミしたいのであります。私がしたいんじゃない。當然皆さんもさう考へていらつしやるミ思ふ。ですから性情ミ云ふ言葉は性格ミ比べて見ればその感情要素だミ云ふ意味にミつて宜しいかミ思ふ。感情の色んな種類ミ云ふ中からこの位置をつきつめれば人情の要素だ、斯う云ふ事にして宜しいかミ斯う思ふ。之は改めて申す迄もない事でありません。皆様が教育していらつしやる時に皆んな之だミ思ふけれども後に私が觸れ様ミ思ふ藝術教育ミか、藝術情操ミか、藝術方法ミか云ふ問題が幼稚園の中に大に行はれます時に、この處餘程はつきりした聯絡をミつて置かなければ不可ないミ思ふのであります。之で性格に就てのお話の第一段を終わります。

まあ便宜上性情ミ云ふのはこれから考へて行く上に何ミか決めて置かないミぐらくしますから。皆さんの御意見は今度何處かで講習會をやつて下されば拜聽に行きます。今日からこの一週間ばかりの處ではさう云ふ風にミつておきませう。

其處で第二段の次の問題はその性格の情的方面です。その性情ミ云ふのは性格の中に於ては何う云ふ役廻りをするものであるか。何う云ふ要素であるか、ミ云ふ事は済みましたが、その性格的生活——生活しない性格はありませんから——生活する性格は何う云ふ役廻りをするものだらうか、ミ云ふ事を考へ度いミ思ふ。この役廻りミ云ふ言葉が適當であるか何うか知りませぬが、まあさうしておいて考へますが、その役廻りミ思はれます幾つかの中の第一は何ミ申しませうか、

この普遍性の役廻りをする。それから普遍云ふのは横に擴がつたのでありますが、普遍を縦におき換へますれば永久的、永久的云ふのは甚だ可笑しな言葉でありますが、常時的、常云ふのであります。永久に何時迄も長い事横にも縦にもその性格である云ふ事が不變性を與へて行く大きな役廻りをするんだと、斯う思ひます。私の性格は生活云ふものの價值に就て見ますと、意志的知的の方面によつて色々な事で随分變る様であります。十年會はざる人に會ひました時に「あの人も性格が變つたね」云ふ事は屢々あります。ありますが、その變り易いものは變る事もいゝ。之は意志云か知識云か云ふ方面でありまして、其人の性情云ふものはさう變りませぬ。性情に基く限りに於ては「一寸會つたら大變變つたと思つたけれども、君と半日一緒に居て見たら矢ッ張り、昔の君だね」云ふのは大層學問して大層世の中を廣く渡つて、苦勞して意志も強くなつた。「そんなに偉くなつたかと思つたが、なかに矢ッ張り、昔の君だね」云ふのは、その性情の處じやないかと思ふ。その反對に「あんな悪い事をして今じゃ手もつけられない惡者になつて了つたけれども、しつくり會つて居る時に「矢ッ張、相變らずのあのんだね」云ふのは意志じやない。知じやない。情的要素だと思ふ。性格の情的要素である。その性情云ふものは性格教育云ふ大なる仕事の中で言つても大なる役廻りをして居るものであります。大なる役廻りをして居るもので、不變のものであります。不變のものである云ふ事は、唯變らない云ふだけで、端から見たんです。變らないものである云ふ事は他處からひゞり、で、に變らないものだ云ふのみならず、自分で變へようと思つたつて却々變らぬものだ云ふ意味も這入つてゐる。先程から申します如く自分で自分の頭を一ぱいの知識を出さうと思へば出せる事もあり、意志の力を働かさうと思へば働かせる。自分の性情を何う變へよう云ふ——今の性情ですよ——今の自分の持つて居る各自の性情を變へよう云ふ事は却々難しい。勿論所謂、率直云云云か、馬鹿云云云か、自分の性情が粗末なのも氣が付かず暴露して居るあさはかな人もありますし、それを大變に氣を付けて抑へて、大い

に隠して繕つて居る人もありますから、一寸した現れは色々違つて居りますけれども、私が此處で言ふのは、自分が氣が付いて自分の性情を斯うだミ繕つたならば、本當の意味に於て其人の性格の情的要素ではなくなるかも知れないと言ひ度い點であります。自分の性情が解る、解らぬミ云ふんじやない。解らない處に自分の性情があるのじやないかと思ふ。皆様は悉く意志によつて自己を操つていらつしやる處の方かも知れませぬ。自己操りの大家でいらつしやるかも知れない。自分の心の中に無限のスキッチを持つていらつしやる。さうしてちよつ／＼ミなる事の出来る方であるかも知れない。さう云ふ方から考へますミ、自分で何うする事も出来ない自分はないミと思ひになるかも知れませぬが、自分で何うする事も出来ない自分があります。自分がありません。その自分で何うする事も出来ない様な自分ミ云ふものはそれを遺傳でござるの本能でござるのミ學問で説明して片づけて了ふ人もありますけれども、さう云ふ事も要素になつて居るかも知れないが、之を要するに其人の性格の情的要素であります。之が實に根本的であります。性情を涵養するミは其處迄の深さのものをミ云ふ意味であります。従つてそれに對する方法の問題も別の事かと思ふ。それ實に深刻でありますが、實に一番その自分の性格の不變の要素になつて居ります自分でも何うする事も出来ず、自分でも恐らく氣がつかぬかも知れぬ。自分の中にどんな自分が居るかミ云ふ事を考へて見るミ凄いいのですね。この外には居りませぬ。居たつて斯うやつちやふでせう。自分の中にどんな自分が居るかミ云ふ事を氣をつけずに來て居る。實に樂天的ですね。併乍ら「やあ」言つてまあ自分の中にこんなものがあるミ云ふ處を氣にして押潰して居る人も之も詰らないですね。その所謂性格の情的要素であるその深いものを幼兒教育に於ても涵養しよう。善良なる性情を涵養しようミ云ふ事をもつミ深く考へます處、其處にあるのであります。其處でさう云ふものでありますが、之が其人の自分でも氣が付かないし、人にも氣が付かぬかも知れない根本、その一番根は本あの西洋の小説にはさう云ふのが澤山あります。ロシアの小説には澤山ありますが、殊に「カラマゾフ兄弟」を御讀

みになりましてそれであります。トルストイ、ドストエフスキーの小説を本當にお讀みになれば自分でも何うする事も出来ない自分ミ云ふものにしよつちう脅かされて居ります。皆さん御承知でせう。「レ、ミゼラブル」も其處を書いたものであります。さう云ふものが何處かにある。あの人が何をしたの、何をしないのなんて事じやない。行ひなんて事じやありません。行ひなんて事じやないんです。「私は今日も、今日も法律に觸れずに盡しました」。「今日も道德上の惡を致しませぬでした」、「今日も心でさう別に不都合な事も考へた事もない」ですから私の心ミ云ふものはそれで凡てが濟んで居るかミ云ふミ何うだか解りませぬな。實に何うだか解りませぬな。その其處を私一昨年でしたか、一昨々々々年あたり彼方の講堂で矢張り性情の問題を題目しました時に「こゝろさまのありやう」ミ云ふ言葉を使ひました。あの時は萬葉を主にして考へたものですからいやにあんな言葉が多くなりました。「心様の有やう」、「ありやう」何うにも出来ない「ありやう」で、變へたら「ありやう」でなくなります。變へたら「ありやう」じやなくなります。その心持の「ありやう」、「心様のありやう」之が詰りその人の最も不變な眞實性であります。その眞實性ミ云ふ事をもう少し外の言葉で説明し直しますミ意識の加つて居ないものだミ言ひ度いんです。性情ミ云ふものは意識の加つて居ないものである。性情ミ云ふものを正面から言ふミ難しいですから一寸ほど斯う云ふものでないミ云ふ事を申しておきます。意識の加つて居るものは性情でないミ思ふんです。

意識の加つて居ない、ミ云ふのは何う云ふ事でせうか。此處で言つて居ります意識ミ云ふ事が單なる心理學的な意識コンシヤスあの意味でない事は明らかであります。その意味で意識の加つて居ないものが性情であるミ云ふのは「寢て居る時より性情はない。何うもあの人は性情の豊かな人で何時會つても寢て居る。渾々ミして寢て居る」さう云ふ事がありませう

か。酒なんか飲んで意識が渾沌として其人の心様のありやうが出て来る。本能だけ出て来てあられない事をやる時に意識の消えた時にその人の本當の姿が幽霊の様に出て来る。「あゝ」を見る事がある。コンシヤスミ云ふ事も矢ッ張其處に一つの性情の出方、現はれ方に關係して來ますが、私はセルフコンシヤス、自分ミ云ふ意識、自分ミ云ふ意識の加つてないものだミ云ふ事が言へると思ひます。自分ミ云ふ意識の加はります生活は自分ミ云ふものゝ意識、自己意識が加つて參ります。その生活は即ち自省、自ら己を顧みる。自省ミも内省ミも反省ミ云ふ言葉で當嵌めて居ります。其處で自己を反省して自己を内省して、自分で自分を批判して「斯うあらねばならぬ」ミ自分で自分を律してその結果其處に造り上げて居りますものは本當の性情じやないのです。嘘ミ云ふ譯じやありません。人前で飾つて居るミ云ふ譯じやないですけれども、自己反省で出来る大事な事です。私はまあ何ミか自己反省で自分を繕つて居る人様に御迷惑を掛けたいのは其爲であります。それは道德的生活の大切さであつて性情なんかミ云ふしつミりミしたものじやない。性情ミ云ふのはもつミ、しつミりミした、しつミり、なんだか知りませぬが。私は朝寢坊なんです。八時に來るのにまあ一ぱいで寢坊であります。寢坊の癖に私は偶には朝早く起きた経験もあり、殊に夏の朝の日の出の前の空氣に觸れ度いのが私の趣味なんです。之は夏ミ云ふものゝ一番楽しいのは日の出る前の——冬の日の出る前もありますが——夏の日の出る前は特別の味がある。其時に起きますミ、何ミ云ふか、しみぐミ云ふか、しつミりミ云ふか、赤い日が出るミ變つて來ます。風が吹くミ變つて來ます。扇風機をかけるミ尙變ります。氷柱を置くミ尙變ります。何にもない。あの朝の太陽さへもない。出て居るんですが。その影響は激しくない。あの時、露が喜んで居ります。私が偶に起きて見ますミ露が矢張、ほんの一時、乾いて了ふ。私も乾いちまふ。私の自己意識ミ云ふものが夏の朝のあのしつミりさを損つて仕舞ふ太陽の熾烈な光の様な氣がする。太陽が出なければ大變です。出ればこそ夏の朝の色彩の面白さがあります。あれ、すぐでは色彩の美しさはありません。唯しつミりミ……こんな顔したつ

て駄目です。日中は暑くて閉口ですが夏位ものゝ色の美しく見える時はありません。春なんて云ふのはあれは誤魔化しです。安繪具を使つて居る畫師あかきです。本當の色彩の綺麗さはない。「春こそ好よけれ」なんて誤魔化しです。本當の紫、本當のカーネーション、カリホルニヤの色彩、南洋の色彩を知らない人が何だか、あのぼ、う、とした言ひ方しか出来ない人が春は美しいと言ひますが、實際、色を色として形式的美的感情の極致に美を見ようとする。つひ自己を反省すればこそ、私の行はねばならぬ事は、夏の日の如く、夏の自然界の如くつきりして居ります。私は透然なくつきりして居る。其處で睡魔が襲つて來てばやける。疲勞が加はつて來てばやける……。處が性情しんじやう云ふものはそのくつきりさはないんです。自己意識が加はりませぬからくつきりさはない。だから何だか斯うしつきりして居る。私は又後で幾度言ふかも知れませぬ。自己意識だけで生きてる先生にあの幼児の性情が何う取扱はれるか。私はぞつとする。中には自分の性情が全く空っぽで唯僅かに理論的に道德を論じて大層自分が偉い様な考へをもつて、幼児の道德教育をなさるならば、宜しうございませうかね、幼児にあのしつきりした性情涵養をなさらうとする時、私は端はたで見えて丸太ン棒で琴を搔廻してゐる様な感じがする。實に恐ろしい云ふのは勿論、自己反省も何にもない幼児の前で、何時でも心様のありやう「あゝ」なんて顔をして居る人に出來るゝは言へやしない。そんなのは問題外です。そんなのは問題外ですけれども、誤り易きは自己反省に基く道德的完成——出來上り——と其のしんみりした性情と其處の處は随分道德教育の中に於て間違ひが起り易いと思ふ。幼児の生活を見て性情のしつきりさに觸れないで「この間言つた事と違ひますな。可からず。べからざるなり」と言つちまつては、實に「なさざる可からず」。：。「あら困つちやふ」なんて事で濟んで了ふ。其時に其人の實に自己意識だけが出て居る。道德生活の大まかさ、荒つぽさ、ぞんざいさ粗雑さ、實にしつきりとは餘りに違つて居る事が其處に出て來るゝ感じられるのであります。私自ら悩んだ經驗、道德的と言ひますか。性情的に苦勞した事のない——他の事に就て苦勞をした

のでなく——自己に關する限り苦勞をした人でなければ、性情の教育は出来ない。申しましたが、自己反省の惱みを持出して「あゝ貴方を叱らうと思ふけれども、己の罪を感じて叱る事は出来ない」心ではさうですが打明けたらいい云ふのではない。さうじゃない。確かに性情が出来て居る。その性情云ふもので自分の自己反省の間に生ずる色んなものをしよつちう感じて居る。其處だけなんです。處が此處にまだもう一つ問題がある様であります。自己反省の餘り鋭い人は始終惱んで居ります。青い顔して……。青白き夫子……。惱んで居る。その他の事で惱んで居るんじゃないんです。人に對するコンモンセンスの、不合理の惱み、勉強しないで悩む、そんな事云々交ぜちや不可ませぬが、そんな事の惱みは事極めて簡單。處がさう云ふ悩みとか、斯う云ふ人があるんです。人があるんじゃないやなくて斯う云ふ事があり得る。この悩み云ふんじゃないんですが、それは人間、動物として色々關係が出来る事なんですが、自己——その何言ひませうか——自ら自分を象つて居る人があります。妙な言葉で、そんな言葉は何處にもありませんが、自省云ふ言葉がある様ですから之を便宜上、自型云ふ言葉を使つて見ます。型云ふものが自分以外にある。自分外にあつてそれに自分が入れるのでありますが、それは外の型に入れられる。私も本當の私、何だか解りませぬ。何だか解りませぬ。大變型に嵌つて居りませう。色んな鑄型の中に身を置くもんですから、平たくなり時にはまん丸くなり、時には色々の場所、その場その場で感じを出して色々型を變へて行きます。處がその他處の型は其處に行きやあ、型が決つて來ますから變らなきやあ不可ぬですから、自型云ふ自分で自分を自分の型に入れちやふ。臆劫です。こんな事手數ですが、其處で自分云ふものだけ、自分の型の中に入れて了ふ。自分の性情が型になるんじゃないんです。自分で自分を象つちやふ。自分を修正して居る人は動搖しますが、自型に這入つて居る人は落付いて居る。「私はもう斯う云ふ人間なんです」云落ついて居るんです。鋭く言ひます。自己欺瞞です。ロシアの小説の人間の見方は人間が人間を欺いて居る。欺くなんて云ふのは人が言つ

た事ですが、型に這入つて了ふ。私はあの鑄形に泥なら泥を入れまして泥が丸くなります。其時に恐るゝ泥に言ふんです。「之は型に這入つたから丸くなつて居るんだよ。君が丸いんじゃないんだよ」泥によつては「えゝさうですこも」云ふ。何うしてもある時期自分で——自分で——泥なんかには出られないんですから。處が自分で自分の型に這入つて自分とはさう云ふものだ、決めてる人がある。「さうも私の性格は悪くつて、悪くつて」云ふ人があります。「あゝさうですか。さうですか、よく御承知でいらつしやいますね」云ふ話が、大抵済んで了ふ。御承知なんじゃないんです。型ミ見たんです。自分を型ミ見たんです。その自分を型ミ見た自分云ふものを型に入れる。この頃は澤山そんな人が居ります。「吾こそ道徳者であり、吾こそ日本人であり、吾こそ教育家であり」自ら型に這入つてこんなになつて居る人が澤山ある。斯う云ふ人は動搖して居る人よりはいゝんです。教育者には澤山ある。あの何ミか云ふ型に這入つたアイスクリームがあります。アイスクリームまんじうミか何ミか溶けなければいゝんですけれども。さう云ふ安製のものが澤山ある。斯う云ふ人は其人の事を論するんじやありませんが、さう云ふ人は幼児の性情は解りませぬ。あのなまゝしさ、しつかりさが解りませぬ。夜が明けるミすぐ十一時の人なんです。寢坊なんだか、日が遅く廻つてゐるんだか知りませぬが、起きたら十一時の人です。あの曉のあのしつかりさ、日が光つて来る頃のその移り變りを知らないんです。自意識の加はらざるもの、性情的な生命をもつて、ミ斯う言へるミ思ふのであります。まだミても充分言ひ現せませぬが斯う云ふものじやないかミいふ處で一つ切ります。

さう云ふものミ考へまして、その所謂性格の感情要素ミしての人間感情、之だつても實に濃厚度が色々あります。又濃厚度の問題に歸りますが實に色々あります。その所謂性情の濃厚度をミの位にして置かうかミ云ふ事は、遺憾乍ら私には

何うしても言ひ現せませぬ。保育室の温度は何度にすべしと言へる様だに非常に便利なんですけれども、之は言へませぬ。何度云ふ事は私の何度貴方の何度と違ひますから、斯う云ふ事に就ては全く一々の客觀的に出す寒暖計の様な譯に行きませぬ。個人的な主觀的なものですから、さうしても言へないでせう。そのものゝ濃度の事は此處できつぱりした言ひ方は出来ませぬが、性格の要素としての人情、人間感情を、斯う云ふそれを基礎にして、それ以上のものであつても不可ないし、それ以下のものであつても不可ない云ふ事は申し得るかと思ひます。幼稚園令が善良なるいゝ感情の養成をせよとも言つて居りませぬし、善良なる情操の教育をせよとも言つて居りませぬので、その中をこつて性情と言つて居ります。以上、之以上では誤り、之以下でも誤り、何處迄も今申しました様な自己意識の加はらざる、自己意識の加はらざる心様のありやうとしてのその性情の涵養でなくてはならぬ。さう申すべきだと思ひます。私は實にこの情操教育云ふ言葉がまあいゝ按配に皆さん情操云ふ言葉を使ひ乍ら極めてあつさり使つていらつしやいますから之がいゝですけれども、私なんかと情操云ふ言葉を伺ひますと大變びつくりするんです。「何うです。一つ情操を御馳走しませうか」なんて言はれる之は一口飲んだら酔つた。一口二口云ふ様に食物の様に考へる。その情操云ふものじやないんです。私が骨折つて考へてゐる性情云ふものはさう云ふ情操なん云ふものでない。その情操の場合に出来る分類、今、藝術情操、道德情操、宗教情操、之は情操の分類です。こんな事は性情に當嵌りませぬ。私はこの事に就て長い間幾つかに色んな事を言葉を換へて申しますが、——言ひ方を換へて申しますが——徹底しない。性情は情操になるものです。情操になつた時には漠然情操なんてものはないんです。宗教情操、藝術情操、道德情操、社會情操、所謂さう云ふ色々なものが出て來るのであります。けれども情操に非ざる性情と言つて居る間はそんなものはないんです。そんなものはないんです。そんなものはない云ふ「あゝさうかい。性情云ふものはそれじや何でもないのかい」之言はれるかも知れませぬ。

が、それにでもなるものです。それにでもなるもの、詰りこの性情がこの儘すうに發達して行きますならば、當然、道德情操になります。恐らく矢張宗教情操になりますうと思ひます。けれども性情の處で道德的か、宗教的か云ふ形容詞をもつて來るには餘りに形容詞の方が大きくつて、その、この時、性情の方が實にふんわりしたもの、幼稚園の子供に大きな帽子をかぶせたり、大きな軍服を着せたり、大きな鎧兜を着せたり、色々さう云ふ事をするのと同じでありまして、潰れつちやいます。私は實に屢々幼兒の性情が喘いで居るのを感じる。實に偉い道德情操をもつて來られる。それは何處にも間違ひありません。何處にも悪い事はありません。なさつていらつしやる方に罪も何もありません。唯私、受ける方で大變です。偉い宗教情操をもつて來られるんです。偉い宗教情操の傍らかたはにおくのは構ひませぬ。道德情操を眞向からもつて來られたり、詰込まれたりする時には性情が喘いで居ります。性情が實に實に氣息奄々として居ります。氣息奄々として居ります中には生きんとする力でおつかふせるものを突破つて自己の天地に出て、大きな天地を造る子供も居りませう。さう云ふのは先生から叱られて居る。叱られる子供でありませうが、さう云ふのも居りませう。私視察に行き度くないんですが、ぐる／＼廻つて來たいんです。私、幼稚園を廻つたら保育を調べに行くに御思ひになるかも知れませぬが、そつと小さな眼に見えない様なものになりましたね。或は斯う全く通り掛りの人の様な風になつて幼稚園の傍に行つて見度い。其處で保育から離れて居る子供を一寸慰さめてやり度い様な氣がする。此間私は文樂の忠臣藏の茶屋場を見まして私大好きです。津太夫のいゝ聲で語りました。「おかるさんが彼處に腰かけて居やる。おかるさん何して居やる」言ふ。「向ふで色々饗應を受けて美味しいお酒の御馳走になつて、私しや酒にもりつぷされて風に吹かれて居るわいな」「風に吹かれて居るわいな」「何さか斯うやつて居る。私なんか風に吹かれるなんて詰らないからあ、りつたけ、馳走になりたい様な氣がしますけれども、逃れて來るんですね。人生屢々逃れて來る。私がぶらり、幼稚園に行

くミ欄干に幼稚園の子供が「餘り保育にもりつぶされて風に吹かれて居るわいな」私はその子供を慰さめる。その逃れて來るのは何から逃れるのでせう。先生に惡意はありません。お酌する人に惡意はありません。唯向ふのは性情のあのしつこりとしたありやうを意識でない、心様のありやうをそれを損なひやしないか云ふ考慮が缺けていらつしやる方。餘まり考慮しちやあ可ませぬが……「本年は性情のしこやかさを本體として當分休園……」(笑聲)けれどもその所謂「風に吹かれて居るわいな」云ふ人に風を送る事が出来ませぬか。もし潰さないで風を送る事も教育じやありませんか。性情に對して特にそれが大事なるじやないでせうか。性情教育は、性情以上のものであつては不可ない。以下のものであつては不可ない。ミ云ふ意味じやないかと思ひます。「さうも貴方は性情教育が過ぎて情操教育になつて、道德的にしつこいね。あれじや子供がやりきれない。情情的であつても本當の性情でない」、「さうですね。それじや寝かしておいて何にもしないのが一番、いゝでせう……」なんて……

詰り性情を涵養する其處の處を上にも行かず下にも行かず、斯う云ふものが性情。その性情ミ云ふ事を正面から私一口も何も言つて居りませぬで甚だ相濟みませぬが、その性情ミ云ふものを斯う云ふものだミ私が若し、不完全な言ひ現はしで言ひましたならば、事によつたらさう云ふものだミちやんミ決めてお了ひになる懸念がありはしないか。何だかぼうミしたのものないんではありませぬが、敢て申上げませぬ。唯私が性情を見詰る事は出来なくてもいゝが性情を見損ふ事のない様に、見つめたら性情の方でファーミなつて了ふかも知れない。その見損はない様にミ云ふ意味からは、只今申上げた様な事で、或點は示し得るんじゃないか。事實上さう云ふ行き道が今日の保育界に多くはないミ云ふ事は言ひ得るのであります。でこの氣持は涵養ミ云ふ追で言葉に就て同じ事を——今は性情を——涵養するミ云ふ處でもう一度申すから、もう少し御解りになるかも知れない。皆様は性情の事は何うでもいゝが如何にして涵養せんか、ミ云ふ事に就て苦心

して居る方が、皆様の日頃のお癖の様です。教育はなんて、眞をお考へになりませぬで、如何に教育しようかをお考へになる。「性情は何うでもいい。面倒くさいいゝ加減にしておいて涵養するに何うすればいいか」を仰有る。それでは私心許ないと思ひます。併しこの性情の方を餘まり見詰めて居てはきりがありませんから、涵養の方でこの問題を考へ様思ひます。

二、涵養云ふこと

性情云ふ事を正面から申す事に於ては未だ足りなかつたのでありますが、まあ斯う云ふものではないか云ふ様な意味から大體あゝ考へるに致しまして、其次に善良なる性情を涵養し云ふ言葉がありますので、その言葉に於て又色々考へて見度いと思ふのであります。

性情云ふ言葉を前の幼稚園規則に於ける善良なる習慣云ふ言葉と比べる處から考へ始めました。處がこの涵養云ふ言葉の場所が前の規則に於きましては、善良なる習慣を養成しなつて居りますので、その養成し云ふ事と比べて考へを出發して丁つたら何うかと思ふのであります。

其處で涵養も養成も要するに同じ事じやないか大雑把に言つて了へばそれ迄でありますけれども、それを何と細かにいざくり廻して見るに、事實兩方共養つて行く云ふ意味がある事は養成の方でも、涵養の方でも同じ事です。唯涵養の場合に就きましてはその養つて行く行き方が此處に示されて居るに、斯う申して宜しいかと思ふ。養成の場合に於きましては善良なる習慣を成立させる云ふだけでありまして、養ひ方に於ては何等言葉が示して居るかは考へられませぬ。涵養の方は今日は浸す^{ひた}とか潤す^{うるほ}とか云ふ字でありませうが、さう云ふ事を通してさう云ふ行き方で養ふ云ふ、斯う

云ふ意味であらうと思ひます。さて潤し浸しさうして養つて行く、或は型に入れて拵へたり押しつけて拵へたり、外から偶然、性情を涵養するんでなくして、浸す事によつて養つて行く、この涵養云ふ言葉は斯う云ふ言葉としては大層難しげな言葉でありますが、皆さんが夏の朝、朝顔に水をかけておやりになる。或はその朝顔の種子を蒔いた時に適當なる潤ひを始終與へておやりになる。そのやり方は即ち濕り氣をもつて種子を浸して種子を養つて行く。或は肥料を與へるにしてもその肥料は或は粉をかけてやる事もありませうし、固りかたまりを側そばに置いておく事もありませうが、あれに向つては水分に溶解した肥料に浸して養つて行くのでありますから、涵養云ふ處が現れますが、凡てあゝ云ふ種子の様なものが養はれて行きます道は斯う云ふ様に同じである。それが涵養であるを斯う考へても宜しいかと思ふのであります。要するにものを造る云ふ場合に外から大層無理な力で不自然な力、殊にわざとらしい力、さう云ふものによつて造つて行くのではなく、何處もなくしつゝさりゝ浸み込んで行く、その働きによつて養つて行かう云ふ事に他ならぬのであります。

さて其處で又一つ問題を切りまして、次の問題に移りますが、浸す云ふのは養ふ方法を示した言葉だしまして、目的は要するに養ふにあるのであります。處で善良なる性情を養ふ云ふのは一體何う云ふ意味であらうか、この間考へました様な意味に於て實に性格の感情的要素であり然も人間的な感情、さう云ふ風なもの、其中でも善良なるものを養成——造つて行かうとするのでありますから、養ふ云ふ言葉には何うしても之は元來持つて居るものを育てる云ふ意味は見逃す事は出来ないであります。單に造り上げて行くんでなくして、外からものを持つて來てくつつけるのでなくして、或はそればかりではなくして、元來持つて居るものを育てる、云ふ事は養ふ云ふ言葉に當然含まれて居る事かと思ふ。さうしますと、あの善良なる性情を涵養し云ふ言葉は元來空つぽである處の、何も未ださう云ふ善良なる性情云ふ

ものが少しもない子供に向つて保育の力でそれを新たに造つて行くものと考へるものであらうか。もう一度申します。子供の中には元來善良なる性情の様なものは一つもない。それを保育の力によりまして、外から所謂拵へ上げて行くのであらうか。更に又強く申して見ますれば、子供の中には善良なる性情がないのみならず寧ろ不良なる性情がある。さう考へまして。それを保育の力で善良なる性情に變へて行くことを考へるべきであらうか。子供は幼稚園に來なければ性情に就て空っぽである——甚しきは空っぽである。それを善良なる性情に拵へ上げて行く。之が幼稚園の目的であること、斯う云ふ風に解釋すべきであらうか。先づさう疑問を立てゝ見ますと、先程申しました涵養、養ふこと云ふ意味からは何うしてもさう取れないのであります。即ち養ふこと云ふ言葉は既にある處のものを育てる。斯う云ふ意味でありますから、幼児の中に善良なる性情の素の様なものはある。不良なる性情もあるかも知れませぬが、善良なる性情も確かに元來持つて居る。斯う云ふ事をこの養ふこと云ふ意味に於て考へて來なければならぬ順序かと思ふのであります。

其處で元來持つて居ります處の善良なる性情を育てること云ふ時に所謂健全なる發達を遂げしめれば自らそれ等も發達して來ること云ふ事にもなりません。若しも子供が元來持つて居ないものを外から養ひ造ることならば、善良なる性情は健全なる發達を遂げても善良なる性情にはならないのであります。健全なる發達、愈々以て不良なる發達とならぬことも限らぬのであります。元來持つて居るものを育てゝ行くこと云ふ意味にするならば、充分健全なる發達を遂げしめれば性情も善良に發達して行くこと云ふ事は考へていゝ事になります。然も此處に健全なる發達に任せずして涵養すること云ふのはその點に關しては何う云ふ意味であるか。斯う云ふ事なのであります。私のお話は大變にグル／＼こじれて居りませう。何處かで一寸トロッとなさるゝ後で解らなくなります。おねむいでもありません。

先に結論の様な事を申して置けば、其處を片付けて行くのかとお解りになるかも知れませぬが、性情涵養の程度に就て二つの大きな注意があると言ひ度いのであります。その二つの注意云ふのは、善良なる性情を外から涵養して行く行き方と、別に外から善良なる性情を持掛けてはいかないが、善良なる性情を内から、内にあるものを涵養しく行く云ふ行き方です。例をすれば肥料をやる場合と水をやる場合と朝顔の種子の育て方にも二つあるじやありませんか。肥料ばかりやつても育つものでない。と言つて自然に伸びて行くのであるから咽喉の乾かぬ様に水だけやつて置けばいい云ふのではない。兩方やらなければならぬ。兩方、肥料と水で育つのでありますが、幼児の善良なる性情にもその水をやる場合と肥料をやる場合。肥料云ふのは既に善良なる性情云ふものを含蓄して居るもので子供を浸して行く場合、それ一方には善良なる性情云ふものは善良性なんか云ふものを未だ含蓄せざる單なる水で浸して行く場合と、斯う二つあり得るじやないか。その事を今考へて居るのであります。

其處で子供自身の中で善良なる性情の種子の様なものもないならば、水をかけてたつて仕様がありません。皆様御承知か何うか知りませぬが、この頃西瓜を美味く食べさせます爲に西瓜が段々熟して来る前に注射をするやり方があるさうです。私もよく知りませぬが、その西瓜の中にあの青い皮の處へ注射をする。甘い液を注射する。さうして出来るなら赤い色も注射するか知りませぬが、黴くも甘い液を注射する。それが出来上つてからは駄目ですが段々適當な味付いて行く時にするに甘くなる適當な方法があるさうです。この甘いものを注射すれば甘くなる云ふのは、善良を注射するに子供が善良になる云ふ事と同じ事である。けれども甘いものを注射しなくても西瓜は自ら甘くなつて行く。私なんか舌が非常に發達して居りますから、「あゝ之は注射西瓜だな」本當に熟して甘くなつたのが美味しいと思ひますが、その例をまあもつて來ませう。善良なる性情を涵養し云ふ言葉が多くの場合大變善良でもつて攻めつけられる様な風がありますが、何

もそればかりではない。幼児の中には既に善良なる性情になるものがあるから水で浸しても養へばいゝんじやないか。斯う云ふ事になる。もう一度皆さんが御解りになる様に、前後するかも知れないが申しますが、善良なる性情を涵養するに如何なるお伽噺を選ぶべきか、修身講和の飴で煮た様なものを頻りに話される。之は詰り甘いものを注射する、善良攻めと言つてもいゝ。あの先生の話はいゝね。實に出て来るもの皆善良で結論は皆んな倫理的で道德的で實に善良だよ。悪い話じやないが少うし善良でこつてりするね」子供は朝フラツミ幼稚園に來まして朗らかな氣分で善良に非ざる朝の景色、善良に非ざる朝の緑、朝のあの露、善良に非ざるあの環境の中にうつゝ、こゝして居ります時に、先生が口を開けばすぐ善良をもつて攻めつけて来る云ふ、子供はすぐうんざりするかも知れませぬ。斯う云ふ時に、何故そんなに善良攻めをなさるだらうか、善良にせねばならぬ云ふ事はかりしていらつしやるか云ふ、善良なる性情を涵養しやう云ふ幼稚園の目的に大變に忠實にお考へになつて何でもかんでも涵養をやらう、斯うお考へになる爲ではないか、解釋出来るのであります。

其處でその事も後で大事な事ですから考へますが、實はその方が大事なんですが、先づその前に元來幼児の持つて居る善良なる性情を唯々涵養する云ふ事は何う云ふ事だらうか、さう云ふ事も幼稚園の一つの仕事じやなからうか、今その問題に居るのであります。

妙なものでこの若し子供が元來、善良性の何ものを持つてないとするならば、之は別になるかも知れませぬが、善良性の淡いなりに幽かなりに何ものかを持つて居る云ふれば、その幼児の生活は性情的生活へ、性情的なる姿へ歸して貰ふ事によつてそれは育つて来るんじやないかと思ふのであります。性情的なる生活へ云ふ意味は一昨日、性情的生活云ふものは意識の加はらないものであり、それを私一昨日、概念化せられざるものである云ふ事を私は考へました。性情は

正面から云んなものであるか云ふ事は言ひ難いが意識の加はつて居ないものである。従つて況んや概念云ふ様な形になつて居ないものである云ふ事は一昨日考へたつもりであります。

其處で人間を、まあ子供でなく人間として了ひませう。人間を意識の加はらない生活へ概念から開放された生活へ、言ひ換へれば情情的な状態へ歸して來ます。その性情が元來持つて居ります善良なるものが其處で育つて來る云ふ事は當然じゃないか、斯う思ふのであります。意識は性情を大變に濃厚にする事は一昨日申した通りであります。意識が加はります、自己反省なん云ふ事を行なつた後に於ては性情が性情の姿に於て現はれて來ない。大變ベシ／＼したものになつちまふ。概念的意識を固めて了ふ時はベシ／＼じゃないこち／＼なものになつて了ふ。性情はその堅いものでなく、堅いものでなく實になま／＼しい、軟らかい、いき／＼しいものだ云ふ事は一昨日考へたのであります。

其處で子供を本當にその情情的なる善良きかなんか云ふ事は大人に於ても實になま／＼しい、軟らかみのある、その意識や概念の働きの取去られたるしつこりした、うつこりした情情的生活に於てやれば、さうすればその性情の中に元來持たれて居る善良なるものが成長して來る云ふ事は考へられるのであります。私は實は昨日神奈川縣廳の用で箱根に参りまして、こちらを一日皆さんに御目にかゝりませんでした。人を打遣つておいて箱根に行つて生意氣だミ仰有るかも知れませぬが決して遊山湯治に行つた譯ではなく、矢ッ張り用で行つたのでありましたけれども流石に小石川窪町ミは違つて居りまして、仙石原のあの全體の綺麗さも、彼處に車で段々上つて行くに連れまして、所謂箱根の翠嵐の中、自然の中に私挾まれて——環翠樓に宿つた譯じやありませんが——箱根に挾まれて、その日かう少うし霧が——夕霧——がしつこり、愈々私はしつこりした。此處じや乾ききつて居ります。しつこりしたその上に湯に這入つて——私は特別温泉が好き

だものですから、まあ何さなく這入つて其中で私は斯う何にも忘れてさうして、うつかりしました。彼處で私の顔を見て「自ら反省せよ」なんて言つた人は一人もなし、「お前、惡を思つちや不可ぬ」と言つた人もなし、「善良なれよ」と言つた人もない。唯、山默して私を圍み、霧靜かに私を包み、温泉滑らかにして私を浸して居つた。流石に乾いて居るこんな意識型の人間、こんな概念型の人間、善を考へればすぐ理窟にして丁半ば出來損ひの人間も流石にしつかりして居りました。うつかりして居た時に、だからすぐ聖人君子になつて、聖人になつた、君子になつた云ふ譯じやない。餘まり聖人君子になつたら下界に下りて來ないかも知れない。併乍ら此處に居る時よりも善良云ふ言葉は常らないでせう。善良云ふ言葉位、程度がありまして私が善良だと思つて居たつて孔子様が見て善良と思ひますか。自分には却々以て善良なる言葉は使へませぬが、此處に居る時より少し綺麗な氣持になつて居たと思ふ。之は何う云ふ意味なんですか。私をあつた山も自然と温泉が意識的概念的しつこき、うるさきその生活から、なま／＼しい性情の姿へ、性情うつかりの姿へ私を暫く歸して呉れた。宿屋でありまして道場じやありません。何も道德家の宿つて居る所じやない。唯私を性情生活へ歸して呉れた。性情生活に歸して見るこの私みたいなものだつて性情に歸るさう捨てたものじやない。だから私の前に來た人は靜かな人だと思つたでせう。ものを言つても返事しないでうつかりして居る人だと思つたでせう。斯う云ふ所に居ては恰も機械の如きがチャ／＼した——その代り間違ひはないでせう。さう無暗に人を突飛ばす事もないでせう。私なんか講習中なんか皆様の世話で誤ちの無からん事を氣にして戰々兢兢々意識して居るのであります。處があつた山に上るさうつかりして寢轉んで居ればいゝのでありますから伸びやかさ——伸びちやつたんじやない——伸びやかになつて居る時に私、善良だか何うだか知りませぬ。善良だか何うだか、さう云ふ事さへ考へない。あの時善良かしら、さ考へたら、あの仙石原の自然環境さ云ふものは私から消え去つて居ると思ひますが、性情のなま／＼しさ、なま／＼しいたつて私のなま／＼しいの

は干物を茹でた様なものでありますけれども、干物がうつかりして居た、その其處の處、此處ん處がかなり大事なものでないかと思ふ。幼稚園に云ふ世界は善良なる性情を涵養するを以て目的とす、云ふ事を私の言はうとする二つの後の方の意味だけに考へる問題の處で、子供をこつ擱へて、善良なる性情をもつて涵養せんとする。善良なる性情の型か何か……私昨日その當り前のお湯に這入つてよかつたと思ひます。丁子湯とか香水湯とか、香水湯ではあの山氣燦爛、山の嵐の匂ひはしてなかつたと思ふ。幼稚園では善良性に餘り満みて居つて却つて子供の性情のそれ自身のなま／＼しさ、生き／＼しさを、現はれて來る事を妨げる。涵養が満ちてならぬ云ふ事を申し得るかと思ふのであります。それだけが善良なる性情の涵養に云ふ事で申して居るんじやありません。若し御都合で後の處を御聞き頂かないで「あれだけか」なんて云ふに私半分しか言はない事になりますが、その半分を言つて居るんです。暑いですから下らぬ話をしませう。此間その偶然私は色んな最中を手に入れました。餘りにも小さい話ですが、偶然宅の者も或る所から最中を持つて來まして人様も下さしまして、相當の最中が三つ集つてそれを食べて居りまして「最中研究會をしよう」云ふので家中寄つて食べました。實に安い材料ですが、その色々の最中を食べ乍ら私の子供が實にさうも、一寸食べて一寸食べて食ひ合して言ふ事に「恐ろしいものですね。お父さん菓子屋も此處迄來る個性を持つて居るね」。實に個性がある。榮太樓の最中の味がある。森八の最中は森八の最中くうやの最中はくうやの最中の味がある。その數日前に……最中ばかり食つて居る様ですが。藤村の最中は藤村の最中の味があり壺屋も違つて居るでせう。東京中の有名な菓子屋の最中と言へば子供の所謂個性がある。その個性を論じて居る中に皆、餡ばかり食べてる。私は最中の菓子としての價值はあの皮にあると言つたら、皆さん餡はやめて皮ばかり持つて行かうと仰有るかも知れませぬが、餡をぬいたら最中じやない。餡の這入つて居ない最皮^もなんてない。最中でなくちや不可ぬ。その最中の餡に個性がある如く、皮に個性がある。餡の研究が濟ん

で皮の研究になる。勿論最中は餡ミ皮ミの關係に於て、子供が食べる様に餡は餡、餡ばかり食べて見るのでは不可ないんですが、この皮にはどうも味が無い。餡の方には個性があるミ云ふ程甘さが明らかであります。同じ砂糖でも何處が違ふんでせうか。小豆の産地が違ふんでせうか。甘さが違ふ。煉方が違ふので味が違ふのか。味の違ふ事は素人でも解るが、皮が違ふ。皮が何處か不可ぬのであります。此處に結果を申し上げます、菓子屋の宣傳をする様になりますけれども、或所のは實に皮がいい。その皮のいいのは、何處にあるかミ云ふミ、最中ミ云ふものは中の餡で組立てゝ活かして、あのこつてりした濃厚な餡で食べさせて活かして、味のない皮で食べます。坊ちゃん餡ばかり食べて皮は金魚にやりなさい、なんて事はないので、あの皮が人間がわざ／＼買つて来て食べる價值がある。性情を涵養するのに、餡の様な味を主にした方面も大事でありますけれども、皮の様な味のない處も必要なので、何ミも言へない味、何ミも言へない味、味のない味ミ云ふものがあると思ひます。其處でまあ一段落を切りませう。餘りこんな事をこた言つて居るミごんな例が飛出すか解りませぬ。

其處でその所謂善良なるミ云ふ内容をもつて行き度い。唯攻めて行くんでなく、善良を、奈良漬、味噌漬、粕漬でつけて行くんでなく唯彼等の意識的概念を取去つて、うつかりした性情のなま／＼しさにあの子供達を歸すミ云ふ事は何うしたら出来るだらう。この頃私お客に行くミ云ふミ、何處の家でも「お暑うございます。さあ／＼お脱ぎなさい。御脱ぎなさい」脱がして樂にしてシャツを着て居ても「脱げ」ミ斯う云ふ。幼稚園へ子供が來たつて「さあ御脱ぎなさい」。意識を脱つせよ。概念を去れよミ斯う言つたつて出来る譯じゃない。それなら唯意識を取り概念を取つて、何ものをもつて浸して居る譯じゃない。例へば幼稚園に這入つて來るミ、庭には打水がしてあるミ云ふのはその一つであります。善良なる性情を涵養しミ云ふ事ミ、幼稚園の庭先に水が撒いてあるミ云ふ事は全く無關係の事の様でありますけれども之は大切に

あります。私いゝお寺に伺ひます。禪宗のいゝお寺に伺ひます。私の氣持は先達で頂いたあの課題を説かうと思つて頻りに考へて行く。段を上つてお玄關に行くゝ、すうつゝ水が撒いてあつて、あゝ、こじれて考へて居た事を忘れて性情の氣分のうつゝりに歸る。其處へ禪師が出て來て「それじゃ」「肩を叩いて」ゝ仰有るゝひよつゝ解る事もないではない。何も幼稚園へ子供が来る度^{たん}びに「それだ」なんてそんな事を言はなくつても宜しいですが（笑聲）この所謂すがゝしい。打水なんか云ふものは善良性じやないでせう。溝水を撒いておいて、其處へ行くゝブンゝするなんて云ふのは困るが、香水を入れて撒かなくても清らかな水道、井戸水でいゝ。廊下が綺麗に拭かれて居る。廊下が綺麗に拭かれて居るのは清潔性はあつても善良性はないゝ皆さんは事によつたらお考へになるかも知れない。廊下は綺麗なのは衛生の問題であるゝお考へになるかも知れませぬが、うつゝりした性情のなまゝしさに人間を歸す上の道であります。言ひ換へればいゝ氣持になつちまふんです。吾を忘れてファツとしたいゝ氣持になる。斯う云ふ意味からしまして、一昨日も一寸言ひ掛けまして後で問題にするゝ言ひましたが、所謂藝術教育ゝ言ひますゝ、皆様は藝術が御好きでまあ何ゝ言ひませうか。デモ藝術家の様な方が多い。その藝術家が多くお揃ひの處で斯う云ふ事を言つては何うかと思ひますが皆様が藝術をお取扱になります時には、之は相當しつこいものであるかも知れませぬ。殊に現代の皆様はさうでないかも知れませぬが私の様な少うし時代^しの古いものは藝術ゝ言つても矢ッ張すぐにこの何か斯う、何かこの善良性なんゝ云ふものに其處へ結びつけて行く。禪のすうつゝした禪の面白味なんか云ふものは私には解らなくて、何か斯う二十四孝の繪でも書いてあるゝ「ヘエ」なんて言つて床の間に掛けて置く。墨付きの筆の面白さじやないんで書いてある言葉が「勉強せよ」ゝ書いてあるゝ床の間に掛けて置く。さうも私は藝術ゝ云ふものに道徳性、善良性を加へます。藝術は本來何う云ふものか喧しい議論をするのでなく、幼兒に及ぼして來る藝術の効果ゝ云ふものは實に意識ゝ概念からその子供をなまゝしい性情の世界へ歸す、ゝ云ふ

働きである。其處が藝術の力であります。幼稚園は何故あんなに澤山藝術の力を借りるのでありませう。其處に繪がある。其處に音樂があり、其處に美しい裝飾がある。花壇があり自然美を始め致しまして、美云ふものゝ力を大變に借りるのであります。其處で使つて居りますものゝ藝術的な處だけを見て、それが幼兒に及ぼして行く所以のもの及び美を通して幼兒を何うして行くか云ふ事を本當の保育の意味を考へない人は「幼稚園が藝術教育をして居る」事もなげに言つて居るのであります。幼稚園が藝術教育をして居る。藝術教育をして居るんでせうか。幼稚園は勿論あのよき音樂を聞かして居りますならば、何時の間にか子供の中によき藝術性が涵養せられるでもありませう。耳がよくなるミカリズムの標準が高くなつて来るミカ、いゝ繪を見せて置けば繪の鑑識が高まつて来るミカ云ふ様な事がありませう。その意味に於て結果として藝術が子供に藝術的效果を與へて行くミ云ふ事も恐らく幼稚園にこんな美の力を借りて居りますのは、美そのものを幼兒に與へよう、美的性情を造らうミ云ふ場合に大事なねらつて居る處があるのであります。それは何か。美こそ世の中に、美云ふものこそ、意識的概念から掛離れた開放された世界は人間はもつて居りませぬ。その意識的概念から掛離れたあのうつかりした美云ふものゝ力を借りて幼兒を意識ミ概念から掛離れた性情のなま／＼しい世界に一時でも歸してやらう、ミ云ふのが、私が美の力を借ります、藝術なるものゝ力を借ります所以であります。朝來ます、打水が一つしてあつても性情の世界に歸すのであります。廊下が一つ拭き清めてあつても性情のなま／＼しさに歸すのであります。事實其處に美はしき額が掛つて居ります。その額の繪は所謂道德畫じやない。額を見て「あゝ私も斯う云ふ風にならなければならぬだ」ミ意識へ歸らせる様な畫じやなくて美そのものに於て理想的な額が掛つて居る。「何ミその形が、色が、線が、その一體のエフェクトが美」さう云ふものを見た時に子供乍らにうつかりした美の中に這入つて行く。著音機がかゝつて居ります。其の著音機がかゝつて居る音に「皆さん今日もよくやつていらつしやる。いゝ子にならうじ

やありませぬか。本當にいゝ子になりませう」なんて事を言つてやつたら、素直な子は「蓄音機の申される如くいゝ子になりませう」少うしひねくれた子ならば「何をうるさい事言つてやがる。機械の野郎何を言つてやがる。」わざと惡戯いたづらの一つもして見たかも知れませぬ。處があつた蓄音機から流れて来るものは單なるメロディーである。その蓄音機の音にフワーと引込まれて、しつこり斯うやつて聽いて居る。その聽いて居る時にその子供は善良なんぞ云ふ世界じゃないんです。性情そのものゝ純なるなまゝしさに歸へされて居る。色々其處へ先生がいらつしやる。先生が出ていらつしやる。その先生の御言葉に何ぞ善良を涵養せんとするものがあるか、ないか。まさかに皆様は幼稚園の子供に朝會つた度たんびに疑ひの眼を以て彼等の惡戯いたづらを防がうとなさるんじやありますまい。探偵の如く、國境線上に立つて居る歩哨兵の如く御覽になる。所謂幼稚園に於てはネガティブ、ネガティブの約束を果さうと、斯う云ふ事をしない様に、ミ云ふ事は成可く言ふまい、ミ云ふ事は幼稚園に於きましてコンモンセンスであります。「斯う云ふ事はしはしまいね」ミ云ふのはネガティブ、惡意に満ちたる先生の態度である。この子があゝ云ふ事をするかも知れぬと承知し乍ら教育者が子供の顔を見乍ら忘れて居る先生でなければならぬ、ミ云ふ事は保育のコンモンセンスでありますから、皆さんは其處迄行つていらつしやるでせう。朝子供が来る。「泥棒しやしまい。嘘を言つては不可ない。何か惡戯いたづらしないで……まあいゝ兎に角善良でなきやあ不可ぬのよ」斯う云ふ人はないでせう。それと反對な事を言ふ人はないでせうからその意味でネガティブはいかぬがポジティブはいゝミ云ふ事がコンモンセンスの中にありまして、「いゝ子ね」私小さい時に「いゝ子ね」ミ言はれる程いゝ子だつたのですが、今思ひ出させませぬが。時々私もやつたり、人がやつたりするのを見て思つたりする。本當にいゝ子を「いゝ子ね。いゝ子ね」ミ言はれた時にさうも妙な氣がしやしないか。「さう仰有られてはいゝ子にならずには居られませぬ」ミ云ふものでありませう。教育者がポジティブ、ペテンゼーション……。私他處へ行きます。私は暑い時

に何か冷たい一寸した飲物が欲しい。處が向ふの人が「先生は冷たいものはお嫌ひでいらつしやいました。衛生家でいらつしやいましたね」云はれる云私……（此の時丁度冷たい飲物を給仕が先生の處へ持つて来る）（笑聲）私旨いものでせう……（笑聲）。それと同じに子供を掴まへていゝ子だね。いゝ子だね。悪い事をしない様に……」。云々。攻めては……。「いい子だね。悪い事をしない様に」云。言はれた方は随分暑苦しいでせう。まあ義理でもつて先生の顔を見て居る間は、先生の御後姿が見えて居る間は、子供は義理でも惡戯いたづらを控へて居るのでありますが。さう云ふ事の外に「いゝ子だね」云はれた時に善惡云ふ事を思はずにやつて來た子供が矢張道德の世界に「幼稚園には善良の世界があるのか」云打水はうつしりした性情の世界に歸らして居つた時に善良の意識に歸らせられる。口では仰有らない先生が慢性的に面つら言つちやあ何ですが顔になつて居る先生がある。「さうもあの先生の顔を見る云道德的電氣がかゝつて來る様な氣がする」斯う云ふのが所謂いゝ顔なんぞでせうね。先生云して。「あの先生の顔を見る云な、まなる性情に立返つて來る」云ふのは詭向の顔かも知れませぬね。けれども幼稚園では私その始め、あの顔がかゝつてうつしり見て、廊下を歩く云何處云なくメロディアスの流れの中に、性情の中に漂はして、其處へ來た先生がその顔が難しいです。その顔が難しいが何う云ふ顔したらいいのか解りませぬが。兎に角その顔が難しい。保育の難しいのはこんな處——一昨日も申上げましたあの淡い子供を私の標準の型で取扱はないで、淡さの中で取扱つて行くのが私の様なものには實に難しい。年のせいです。年のせいです。要するに何にもしない方がいゝでせうね。まあさうせ繪が子供をいゝ氣持にして居るんで、あれもメロディーがいゝ氣持にして居るんですけれども、先生が出て來たらお邪魔しない様に。性情があの中で性情がジェリーの如くファーミしない様に、さう云子供の傍を拔足して通る先生、洒落れますね。子供が先生を掴まへて「お話して下さいな」云ふ。

昨日久留島先生のお話は大変いゝ御講演で皆さんも御満足になつた云ふ事を早速報告を受けまして、私も拜聴出来なかつた事を残念に思つて居りますが、先生何う云ふお話をなさいましたか知りませぬがまさか先生はあの童話に依て内容的効果を與へる方ばかりを主張なさらなかつたと思ふ。若し其方の方面だけ仰言つたら、久留島さんが其方ばかり仰言つたのではなく、二時間云ふ足りない時間がさうさせたと思ひます。一々話が善良性をもつて子供に或物を押付けて行く事ばかりがお話ではない。私は先に、通り掛りに何んな顔をしたならばいゝだらうかご申しました。まさか横を見て通る譯ではありませんまい。けれども眞向きになるこつひ折角のメロデーミ折角の藝術美の世界から與へて居る印象を、倫理世界に持つて来る危険がある云ふのでしのび足で通る云ふのですが何うでせう。お話を始めたら……お話は色々な話がありますが、幼児ミ先生ミのお話ミ云ふ場合には大體に於きまして、殊に大人同志でもあつさりしたお話は二人の間に第三の問題を置く事であります。支那の言葉に「相對して語らず唯桑麻長ずミ云ふ」ミいふ言葉があります。偉い聖人が會ひまして、實に當節困るのであるミ云ふ事を言ひさうな人が言はないで「今年は桑がよく成長しましたね」ミ話す。二人の中に二人の世間を動かすのではなく第三の話が出た。カーライルミエマーソンが會つて、何を論ずるかミ思つたら、互にいい煙草を交換して火を點けて吸つた。斯うなるミ言ふ事もない程ボーッミして居る。小人に限つて、會ひさへすれば自分の話をする。第三の問題が出て來ない。自分の問題が迫つて居る人が「いゝ處でお目にかゝりました。先日の借金は何うしませう……」ミ言ふ。幼児ミ會つて居る時に第三の問題を用意せずに話すミあなた……ミこつひ出る。「氣をつけなさい不良なる性情を出さぬ様に」ミ云ふ事を言ひ度くなる。「手に白墨を持つて居るな、落書をしちやいかぬ。窓の側を歩いて居るな、窓に上つちやいかぬ。何だかお手々が動いて居るな、鼻の穴へやつちやいかぬ」ミ云ふミ其子を先生が見て「坊やが色々惱みを持つて居る」ミ云ふ様な事にならぬミも限らぬ。それを第三の問題をもつて來りやあいゝじやないですか。

何處へいらつしたの」、「鎌倉へ」、「お魚が泳いで居た？」泳いで居たのが問題の主ではない。鎌倉へ行つて「建長寺に行かないのは精神修養上惜しい事である」と云ふのではない。鎌倉の水話と云ふものが第三話題である。私でもない。其の子でもない。第三の話題を出すに自己意識と善良の道德習慣の方へ這入つて来る事から離れるに、善も忘れ惡も忘れて第三の話が出来る。況んやその第三の話が鎌倉の海の話でも宜しいが、昔々或處に……第三も第三も實に大昔の第三の話、うつかりして了ふ。お伽噺さは、これは何も精神教育に於て、師弟相對すれば必ず道を語るに云ふ様な事とまるつきり性質が違ふ。第三の話をしてうつかりする。これはあなた方だつてさうでせう。輕き惱を持つて居る時には人の處に行つてうつかりして貰ひ度いでせう。私は煩悶して居る。分るでせう、分るでせう、一昨日は三も、んだつたが今日は半もん……所が本當に惱がある人はその事に觸れて貰ふのは嫌でせう。私なんか惱ばかりだから色々の話をされるのが嫌で仕様がな。借金の話をするにぞうつかりする。だから呑氣な話だけがして居たい。そこで友達のところに行く。向ふが「如何です、其の後御病氣は」、病氣を氣にして呉れる。「それを言つて呉れるなら看護婦のところに行くよ。君のところに來たのはあれを忘れ様と思つたからだ」それで、夏は何うもいゝね、ミ關係のない話をしようと思つて来る。そこに性情にかへる。吾を忘れる。忘我の境、忘我と云ふミ大げさですが意識と概念を離れてなま／＼しい性情にかへられれば、豫て幼兒の性情の中には微かながら存在するミ見ましたあの善良性がたゞ味の無い水、榮養量のない水に浸される事によつて育つてあります。私は幼兒をさうして涵養したい。さう云ふ行き方がもつミもつミ私達に出來たらミ思ふのであります。あの昨日のお話から繋ぎをつけて申しますミ、久留島さんのお話は何う云ふお話をなさいましたか……皆さんが可愛いお子さんであつたならば、久留島さんはあのバスの太い聲で面白いお話をなさつたでせう。そのお話を幼兒が聞いて居るのを横から見て居る時に幼兒の顔は實にうつかりして、なんてあの意地惡の子供がその時はうつかりして居るでせう。なんてあ

の強情な子供が素直な眼付をして居るでせう。なんて普段ならば、「ねー先生あゝん」を首を斯う向ける習慣の子供が、メロディアスにお話が進んで来るこ、さうだね、さうである可きだね、いゝ事をしたね……お話の言ふそのまゝ素直さに於てすうつゝ受取る顔になる。そのお話を聞いて居る間丈でもボーッこなつて居る。一時天國一時聖人一時君子結構であります。私は世の中の悪人が朝の寺のお勤めに出てじつとして居るのを見る。其の時に世間の人は「何があんな野郎がこんな事をして偽善極まる奴なんだ」を仰言るが、私は一時でもシーンこなるいじらしい氣持は充分了解する事が出来る。

私は刑務所の色々の話を聞いた事があります。刑務所で著音機をかけて居ります。刑務所ですよ。極めて呑氣な様な話ですが、此の頃の刑務所は——餘り御親類もいらつしやらぬでせうから申上げますが——部屋があつて休憩時間休んで居るこ部屋中へすつゝ聞える。その著音機が、何んなレコードが選ばれるか、何處かのお説教も何か修身訓話であるとかならばまあそれに依てあの人達を感化しよう云ふので成程御了解になるか知りませぬが、實にナンセンスなものか、或は非常にメロディアスなもので、勿論第九シンフォニーでは分りませぬが、此の間泥棒の這入つたお勝ちやんでも宜しう御座います。するゝ聞いて居る者が、あゝ悪い事をして居るゝ後悔して居るなんて云ふのは、これは實に善惡に捉はれて居るゝ思ふ。況んや、出たら又人をやつつけてやらう云ふ氣持があつてもメロディーが来るこ、一時天國一時善人一時うつゝに歸る。監獄刑務所に於て尙ほ且然り私が幼稚園に於て藝術的な手段を用ひ美的材料を用ひるのは、世間往々言ふ如く、小さい時から藝術教育を仕込まう云ふのじや御座いませぬ。意識の概念から人間を開放して、生々しい性情にかへらせる偉大なる藝術の力を借りよう云ふのであります。これは充分一つお考を願ひ度いと思ひます。皆様も時によりますこ、お歌なごを聞いて居りますこ随分あやしげなものがある。私にも調子の外れて居る事が分るから、耳のいゝ人は何う聞えるか知れない。先生自ら慰めて曰く「彈き方は下手い、譜もよくないかも知れないが考へて御覽なさい、いゝ

文句だ……なんて云ふ事を言つていらつしやる。これは藝術を借りて居るのじやないのですから言葉なんかいいのであります。言葉云ふものは意識の概念に行き易いから、言葉なんかいいのがいゝ。その所謂メロディー、ハーモニーの中で行くのが出来たらいゝ。私の知つて居る幼稚園でカトリックの——西洋の幼稚園では澤山ありますが——鐘を鳴らす。あのチン／＼チン／＼……。この幼稚園もお茶の水の時分はニコライ掌の鐘を聞いて居りましたが、カラン／＼／＼／＼……意味はないそのメロディー、前さ後の音の繋りがカトリックの音楽として特有ですが、其の中に子供をやつて溶かす。あんなものは實に面白いものだと思ふ。斯う云ふ考で、如何にして色も光も音響もか、こゝによりましたらば幼稚園の中にいゝ句のある事もいゝでせう。何故幼稚園に花をお植ゑになるか。その花には何故百合の句のいゝのが選ばれて居るか。たゞさう云ふうつかりした氣持にしようとする丈であります。或は先生が仰言るお言葉の中に、音楽にはならぬが詩の様な言葉が出る。先生のお使ひになる言葉の中で……詩云ふに難しいが、詩の言葉……まあ例へば「今朝はいゝ天氣でしたね、朝早く草の葉に露がありましたね」を仰言る所を「何いゝ天氣よ、今朝は露があつたでせう、草の葉に！」を仰言れば、一寸した言葉で子供は一寸メロディアスを受ける。斯う云ふ意味から、幼稚園の先生が藝術を借りて来る、一寸した藝術的表現の仕方、さう云ふものが非常に大事ではないかと思ふのであります。

これでこの問題をくぐりますが、この事に就て、特に大事な問題をくぐりしたのであると云ふ事を附加へて申します。

幼稚園は先生が教育をなさるのみならず、同い年の様な子供に依て造られた世界としての教育効果を重んじて居る事は申す迄もない。而もそれは果して如何なる意味に於てあらうか云ふ解釋に就ては實際色々あります。色々

な關係が其の中から見出されるのでありますがその一つとして多く言はれます所は、同い年の様な年齢の者は同じ様な興味をもつて交る事が出来る。これが一つ。その前に斯う云ふ事を言ふ人があります。同い年の様な者を集めて置かぬ云ふ此方の言ふ事が、程度を揃へて置かなければならないと教授法で幼稚園を論ずる人があるが、それは小學校と幼稚園と取違つて居る。それは大した問題ではない。たゞ子供達の間には同い年である爲に興味が一致する。第二には、同じ様な年齢でありますから力のぶつかり合が對等で、所謂相互的關係を充分營ませる事が出来る。これは私の常に力説する點で、幼稚園に於ける相互的影響が、同年齢の子供に於てよく行はれると云ふ事であります。然しこの他に今日もう一つ言はなければならぬ。同い年の様な子供同志は、互の間に意識を引起したり概念を造り出す事が少ない。私でも、私より先輩の人、教を乞はなければならぬ人、年長者に會ひますと自分自身は警戒する。……と言ふと卑怯ですが、意識します。氣を付けます。それが悪いのじやありません。さう云ふ事も實に私共に必要な點でありませうが、今のうつかりした性情の生々しさに自分を置かうとする爲に、さうでない樂な感じで會ひ、得る對等の友達が一番いゝ。相等の友達の間にあつてさへも理窟許り言つて居る人もあるが、對等の友達に會つた時は、吾を忘れ彼を忘れ……吾を思へばこそ彼が氣が付くであります。それが、對等の氣持で相手が居るのに、さつきから居たのが居ても居ないでも同じ様なもので、實にうつかりして居る。あの子供が砂場で遊んで居る時にうつかりした姿であります。あれの中に、あの友達同志たゞ楽しく遊んで居ります中に彼等の持つて居ります善良なる性情の小さきものが育つのであると云ふ事を疑ふ事は出来ないと思ふのであります。育ちつゝあるのであります。斯う云ふ意味からしまして、幼稚園と云ふ世界を先生が用意する環境から申しまして、子供達相互の關係から申しまして所謂善良なる性情の外から養はれるに非ずしてそれが内から養はれて來ると云ふ風に考へられる方面が相當大事ではないかと解釋して居ります。

こゝで大きな線を引いて一くぎりきります。

こゝ迄申しました事で、これが若しも充分に理想通りに行はれればそれこそ實にいい保育が出来ると思ひますが、然しこれ丈でも私の方が申し足りませぬ。幼児に取つてはこゝによつたらそれだけの方がいいのかも知れませぬ。何うも幼稚園に云ふ處もいゝが——家の幼稚園も相當分つて來ていいやにいいくないが——彼處に行くに、家では吾子を立派な者に造らうとして居る神經衰弱のおつかさんの側で……。「この頃先生何も言はなくなつていゝ。君の組は何うだい」、「僕の組の先生は自己修養で成上つた先生で、それがぬけちまへばいゝが今でも小細工がくつゝいて居る。人の顔を見ればごちやゝ言ふ。彼女に教育致され、實に感謝するが、やり方はどうも吾乍らあれじやいかぬと思つて居た。所が此の間誘導保育案さか何さか云ふ事で、先生が先立つて何がやり出して僕がいつても、さういふ何でも手傳つて呉れるので事がよくなつた。僕も一生懸命仕事をする、先生が顔を合せ、『よく出來たね』言つて居る時に僕は随分いゝ氣持で半日暮すんだよ」。かう考へるかも知れませぬ。所が先生の方になつて見ますとそれだけじや何うも足りませぬ。私は布袋主義に云ふ事をよく申しますが、布袋さんなんかはそれで徹底していらつしやるのじやないか。大なるお腹をもつて確信してお出でになつて……。私はそこ迄却々行きませぬ。布袋さんではなく眞諦さんですからそこ迄行かせぬから、何さかやういふをする。そこにもう一つの涵養の問題が残つて居るかを申したいゝかと思ふのであります。

もう一つ残つて居りますのは、私共が所謂環境を善良なる環境にして、その善良なる環境に依て子供達の善良なる潤ひを……善良なるものを浸み込まして行くに云ふ問題であると思ふのであります。この方は然し、もう私が改めて申す迄も

なく皆さんの心掛け過ぎる程心掛けていらつしやる問題かと思ふ。たゞ此の時に起つて來ます問題は、もうさつきの處へはうんミ力を入れて言ひたかつたが、後の方は何でしたらお疲れの方はお立ちになつてもいい。たゞまあ善良ミ云ふ様な問題がこゝの所難しくなつて來るミ云ふ事を考へて置けば足るかと思ふのであります。さつきの、善良なんて云ふ事を離れて美的感情に依て行くのですが、美ミ云ふものには程度はありません。子供用の美、大人用の美、そんな事はありません。皆さん立派な額を掛けて置けば宜しい。さうすれば子供は子供なりに取るだけの話です。さうも皆さん幼稚園で子供の爲に音楽を弾かうと思ふミ随分苦勞する。「私のは幼児向きではない」。幼児向きの時には少し調律を悪くして置いて、「これが幼稚園用の音楽だ、何うも私はタタタタミ弾いて了ふものだからいかぬ……」ミ仰言る。そんな事はない。尤もあなたが餘り上手な音楽を突如ミしておやりになる。今迄は鳩ボツボで踊らして置いたのを急におやりになれば鳩はボロツミして了ふかも知れませぬ。それを、拍子を取る様な積りでやつて來た人が本當に或メロディーをすうつミ出したら、子供はうつミりして了ふ。いゝ氣持で、踊らないでうつミりして了ふ。性情の生々しさにかへるミ云ふ事になるかも知れませぬけれども、それを始終中して居れば何でもない。決して御遠慮要りませぬ。春の櫻が、詩人が來たからバツミ開き俗人が來たからぐにやつミなるなんて事はしない。太陽が、見る人に依て光は變へない。此方が何の位取るかミ云ふ事は取り方次第であるが、向ふは承知の上です、所が何うでせう。善良ミなりますミ云ふミ、元來が道德批判の上に築かれて居るものでありますから……絶対本質のものではなくて所謂道德批判の上に築かれて居るものでありますから、その善良さミ云ふ事が却々これが、程度よりもつミ微妙なる色々な種類變化がある譯であります。即ち大人の美術ミ子供の美術ミそんなに違ひませぬが、大人の道德ミ子供の道德は違つて居る。大人の倫理意識ミ少年の倫理意識は違つて居る。そこで何う云ふ善良さをもつて行くかミ云ふ事は却々難しい。そこで、何れを標準にもつて行くかミ云ふミ、一昨日申し

ました、これを度で現はす事が出来ないと同じ様に、何う云ふ性質の善良さをもつて行くか云ふ事は却々分らぬのでありますが、私はこゝで一言申しまして此の暑い朝のお話を終りませう。

私が、何んな程度の何んな種類の善良性を持つて子供の環境を取圍むに致しましても、この環境として子供を受圍むのは、何う云ふ結果を生ぜむが爲にその環境を造りつゝあるか云ふ事であります。こゝは考へられる問題だと思ふ。これは子供達をしてたゞ眺めさせる爲の環境じやありません。子供達を感心、感服させる爲の環境ではありません。況んや子供達を嚇かしつける爲の環境でもありません。子供達の性情に浸込ませる爲の環境であります。何んな善良であらうか、何の位の善良を用ひるか云ふ事は却々難しいが、あの善良の濃さ云ふ事も、或濃度に於て浸込み易い云ふ事が定ると思ひます。斯う云ふ様に、浸込ませる爲に善良なる環境を造つて居るのだ云ふ事は、涵養する云ふ以上は當然さうでなくちやならぬと思ふ、浸込ます。先刻申しました善良さか何さか云ふ事でない。美的感情の中に子供をうつりさせる事は當然子供の方がやつて行くから問題はない。善良さ云ふものを押出して浸込ませうとする時に今の問題は起つて来る。もつゝ問題を實際に就て申します。幼稚園で、善良なる環境を與へる云ふ事の手段さしまして、分りいゝのはお話であります、其のお話の中に道德性を持つたお話をすることは宜しい。何も、ナンセンスなお話、美のお話、文學的なお話、メロディーの、イマジネーションのお話、これは先刻の意味であります、それ許りでいゝ譯じやない。矢張り其の中に道德性の、善良性の織込まれたお話を聞かせる事は必要であります。それを聞いて居る度に子供の性情が其のお話に依て溶けて、其の中に先生の選ばれた善良性が浸込む云ふ事になるであります。そこでそのお話云ふ場合で申して見ます、何んな善良性がいゝか云ふ事で、子供がたゞ感服する丈のお話云ふものはよくないと思ふ。よくないのではないが浸込ます云ふ事に於て乏しいと思ふ。而も斯う云ふ事を申しますのは、小學校にしても或は普通の家庭の場合

に於きましても、道德的善良なるものを子供に語らうとする時に、實に實に飛離れた道德的善良……人類の中で何人がそれが出来るであらうか云ふ高級な話を子供に持つて行く事があります。これは勿論平凡な話許りして居てはいけません。ぐつゝ高い話をして、人間はそこまで偉い云ふ風な感じを持つ事も必要でありませう。小學校の三年邊りから私はそろ／＼人間の道德生活の高さを示して驚きの感じを持たせる事が必要だと思つて居ります。三年生から四年生位迄は、日本に富士山云ふものがある、こんな高い山がある云ふ事に興味を持ち得る……持たせ得る事も必要と思ふ。幼稚園で富士山が高いと言つたつて、あの高さが何萬何千尺あると言つたつて「そんなに高いんだよ」云ふも「あの砂場の山も何方が高いの？」と言ふ丈です。で、その程度の子供に人類生活の高さを語る事は賢い方法であるか何うか云ふ事を私は申したのであります。そこで無暗に高い話をもつて子供に感心させたら何うである。賢人君子になつて來ましたら、涵養されるんじやなくて攀らむ事だ道德修養の上に出て來る。そんな幼兒じやないから、要するに涵養する。激成激發すべきではなく涵養する。それならばそんな、仰いで及び難しと思はせるよりはもう少し樂な氣持で、其の中に溶込み得る様な卑近な……申しますが、さう云ふ趣きを以て善良さをお話するのがいゝじやありませんか。餘り高級な、世にも珍しい様なえらい話、親孝行の話を子供にして、「家が貧乏でおつかさんの爲に斯う云ふ孝行な子供があつた」言つたならば「家のお母さんは貧乏でも病氣でもなし困るな」言つた云ふ笑話がありますが、その笑ひ方にも色々ありますがその笑……おかしい云ふのは單におかしいだけではなく、其の聞いた子供の中に浸込まなかつた云ふ事を立證して居ると思ふ。そんな話を幼稚園で幾らしたつて詰らぬ。そこで私はその善良さ云ふ道德の高さを、何の位の高さ云ふ事は却々言へないが、浸込み得る様な高さ、浸込み得る様な環境の與へ方、斯う云ふ所に意を用ひるの必要じやないかと思ふ。涵養云ふ言葉に即して斯う云ふ事を考へたのであります。

もう一度約めて申します。善良なる性情を涵養し、ミ云ふ言葉である以上は、善良なる性情が子供の中に、既に外から造られる前にある事を考へなくちやならぬ。或事を考へた以上は、それを更に善良なるものにすべく、善良なる環境を以て浸込ませて行く事も、皆様の疾にやつて居られる如く實に必要な事である。然しそれで足らず、その持つて居るものを成長させる浸し方としては、所謂彼等を彼等の實に本然のうつかりした、意識ミ概念に煩はされない世界に放つて置く事、そこに又一つの大きな意味があるのであるまいかミ斯う考へて居ります。今日のお話はこゝで終ります。

(文責在編輯部)